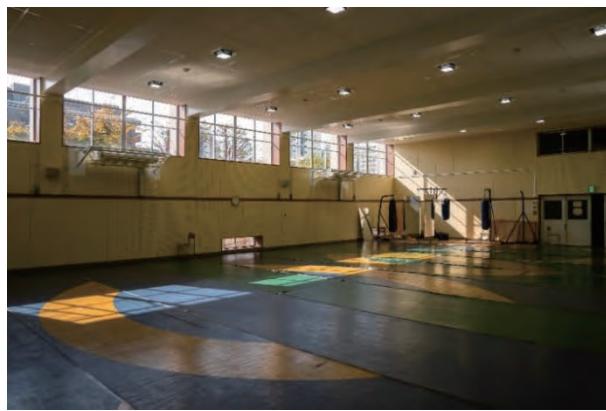


# 創立五十周年記念誌



東京都立足立東高等学校

## 校舎風景・施設



## 学校生活



体育祭



マラソン大会



東輝祭（文化祭）



東輝祭（文化祭）



インドネシア交流会



合唱コンクール

## 創立五十周年記念誌 目次

校 歌				3
校 章 と 校 旗				5
御 挨 拶	東京都立足立東高等学校創立五十周年 創立五十周年を迎えるにあたって 創立五十周年を迎えて	校長 副校長 副校長	鈴木 康司 大場 崇博 倉持 佳正	6 8 8
御 祝 辞	学び直しで未来を変える 本当の優しさ 創立五十周年に寄せて	第14代校長 P T A会長 同窓会東輝会会长	平田 誠一 中川 崇 鶴岡 聰	9 10 11
沿 教 閩 務	部 とかく教育課程はままならぬ 旧教育課程表（平成24年度～令和3年度まで） 新教育課程表（令和4年度～現在まで） 体験学習 I 体験学習 II	前教務主任	和田 稔	12 14 15 16 17 19
生 活 指 導 部	足立東高校生徒会活動 部活動	生活指導部	後藤 大騎	21 22
進 路 学 習 部	進路活動この10年 スタディガイダンス キャリアガイダンス スキルアップ 自立支援 進路状況1（平成27年度～平成31年度・令和元年度） 進路状況2（令和2年度～令和6年度）	進路学習部	稻垣 愛梨 稻垣 愛梨 稻垣 愛梨 稻垣 愛梨 稻垣 愛梨 前田 久美子	32 33 33 34 34 35 36
健 康 ・ 環 境 部	保健・美化・教育相談体制	健康環境部主任	橋詰 真子	37
図 書 館	「足立東」の図書館として	司書教諭	吉田 亘	38
学 校 行 事	東輝祭 体育祭 合唱コンクール マラソン大会 修学旅行	生活指導部 生活指導部 生活指導部 生活指導部 3学年主任	後藤 大騎 江原 ミナ子 江原 ミナ子 江原 ミナ子 野崎 明男	39 40 41 42 43
参 考 資 料	エンカレッジのあゆみ <元原稿執筆>	第14代校長	平田 誠一	44
在 職 者 一 覧				53

# 校 歌

山 本 和 夫 作詞  
平 井 康三郎 作曲

1. 古利根干潟に 文化の咲きし  
太古を偲び 武蔵野の日の出仰げば  
懼れは 日に新しく 明日の世界に拡がりて  
不退転 その意志毅く 知性を高める心は豊か  
われらは 足立東高校生

2. 遥かに富士ヶ峰 彼方に筑波  
両座の空に 鮮やかに虹の立つ見ゆ  
手をつなぎ 日に新しく 瞳むわれらのその証し  
思いやる 心は渥く 相寄る心は対話に融ける  
われらは 足立東高校生

3. 青空爽か たわわに稔る  
稻穂のごとく 稔りゆく不壊の哲理は  
奏鳴し 日に新しく 未知の天地に羽博かん  
自主自律 その気も高く 無限を凝視める大視野に立つ  
われらは 足立東高校生

## 作詞者（山本和夫氏）紹介

明治 40 年 4 月 25 日 福井県小浜市に生まれる。

児童文学研究家。

「仙人と人間との間」「戦争」「ゲーテの椅子」「峠を行く」「海と少年」「山の分校」「なむあみだぶつ戦争」「燃える湖」「小さなのち」「影と共に」「子供のつくる詩」「トルストイ」「大平原にジプシーは歌う」等、多数の著作集がある。

## 作曲者（平井康三郎氏）紹介

明治 43 年 9 月 10 日 高知県に生まれる。

元東京芸術大学教授。

「混声合唱曲集」「コーラスアルバム」「続コーラスアルバム」「名歌曲集 1, 2」「女声合唱曲集」「合唱名曲」等、多数の作曲集がある。

# 足立東高等学校校歌

山本和夫 作詞  
平井康三郎 作曲

力よく、さっそうと (♩=約112)  
*mf*

ふるとねひがたにぶんかのさきし  
たいこをしのびむさしののひの  
であおげばあこ一がれはひに  
あたらしくあすのせかいに  
ひろがりてふたいてんそのいしつよく  
ちせいをたかめるこころはゆたか一  
われらはあだちひがしこせい

## 校 章



校章の由来；大谷田の地は、江戸時代は豊かな古利根川の水を利用した水田地帯であり、江戸市民の食糧供給源のひとつであった。

稲は日本人の主食であり、また「実るほど頭の垂るる稻穂かな」と言われるように、日本人の心の故郷でもある。

校章の五枚の葉は教育目標の五項目を表わし、下部の三つの束ねは三つの学年が力を合わせて本校の発展に努力することを意味する。バックのブルーの色は古利根川（現在の中川）の水を象徴し稲の黄金色は実った稲の黄色を示す。下方の丸い赤色は東から上がる太陽であり、そのまわりの六角形は「東」の文字をデフォルメしたものである。

## 校 旗





## 東京都立足立東高等学校創立五十周年

校長 鈴木 康司

東京都立足立東高等学校創立五十周年を迎えることができました。

創立以来、本校の教育活動に御理解、御協力を賜りました保護者、同窓会並びに地域の皆様に厚く御礼申し上げます。また、これまで本校の教育を支えてこられた歴代の校長先生をはじめ、多くの教職員の方々の御尽力に敬意を表しますとともに、衷心より感謝申し上げます。

さて、本校 50 年の歴史の一部を概略的に紐解くことといたします。

昭和 50 年に都立足立西高等学校内に開設事務所が置かれました。そして、同年 12 月に都立足立東高等学校が開校します。初代校長は宮崎四郎先生でした。翌年には校舎第一期工事が完成し、本校舎利用が始まっていきます。今ある学校要覧の沿革には、昭和 54 年に第一回卒業式が挙行されたと記されていました。その後、昭和 60 年 11 月に創立十周年記念式典、元号が代わり平成 7 年同じく 11 月に創立二十周年記念式典を挙行しています。そうした中、平成 13 年には校舎大規模改修工事 A 工区が完成しました。

平成 14 年 6 月、東京都教育委員会からエンカレッジスクールの指定を受けることとなり、翌年 4 月には 5 学級編成としてエンカレッジスクール第一期生の女子 119 名、男子 80 名が入学したと綴られています。平成 17 年 11 月、創立三十周年記念式典、更に平成 27 年 11 月、創立四十周年記念式典が挙行されました。

令和 3 年 3 月、学校教育法施行規則の改正があり、国は設置者が各高校に対し各校の社会的な意義をスクール・ミッションとして示すこととし、各高校にスクール・ポリシーを策定し、公表することを義務付けました。本校に示されたスクール・ミッションは「心身ともに健康で、知性と感性に富む人間性豊かな生徒の育成を目指して、学び直しを原点としながら基礎学力の定着と生き抜く力を育

む教育活動により、自己管理ができる人材、社会性や規範意識をもち、身に付けた知識・技能を活用して課題に対応し地域に貢献できる人材を育成します。」というものです。

スクール・ミッションが策定、公表されて 4 年が経ちます。都立足立東高等学校はこの間も連綿と創立五十周年に向かって“今”を紡いでまいりました。言うまでもなく本校創立以来 50 年もの間には、社会に有為な人材を数多輩出し、文化・スポーツ・芸能の分野だけではなく、その他の分野、各方面においても活躍されている卒業生の方がいらっしゃるのは周知の事実です。

次に、直近過去 10 か年に焦点を当て、具体的の成果、実績について振り返ることといたします。

本校は、教育庁地域教育支援部生涯学習課が所管する都立学校自立支援チーム派遣事業における継続派遣校の指定を、平成 28 年度本事業開始時から現在まで受けております。本事業は、都立高校生の不登校・中途退学の未然防止対応の取組として推進されており、中途退学の未然防止、不登校生徒への支援だけでなく、生徒及びその家族が抱える課題への福祉的支援や都立高校を中途退学した生徒への就労・再就学支援などを行っております。

本校における直近過去 10 か年前半の中途退学件数は、30 件前後との記録が残されていましたが、その後半、すなわち先代校長在任中の 5 年間では中途退学件数は、平均 15 件程度にまで減少していました。都立学校自立支援チーム派遣事業継続派遣校として、事業目的である生徒の不登校・中途退学未然防止に資するよう自立支援チームと連携し、丁寧かつ、きめ細かな生徒対応等に取り組んできたことが容易に想像できるところです。また、こうした実績と相関があると分析できる客観的な成果として、進路決定割合を挙げることができます。およそ 10 年前のそれは

80%程度でした。しかし、平成から令和へ元号が代わる頃には 92.4%まで上昇します。結果、先代校長は在任 5 年間のうちに 98%と少なくとも過去 10 か年の最大値を打ち出すという成果を上げたのです。学び直しを謳うエンカレッジスクールである本校に入学した生徒を誰一人取り残さず学び直しができたという実感を味わわせ、自己肯定感、自尊感情を涵養することで、帰属意識を抱かせてきたことが中途退学件数の減少と進路決定割合の上昇につながったのだと推察できます。

さて、これから先、本校の 100 歳までの道程については、目標を共有する教職員とともに、都立足立東高等学校らしい教育活動を日々積み上げることによって築いてまいりたく存じます。そのためにも、改めて設置者がこの都立足立東高等学校をどのような学校として社会に見せたいのか、一層理解を深めるとともに、教職員とは生徒のためという共通の価値観の下、生徒が活躍する将来を見据え、一人一人が感性を豊かにして、人生や社会の在り方を創造的に考えることができるよう、豊かな心や人間性を育むことのできる学校づくりを続けてまいります。

必ずや 100 歳を迎えるに違いない 50 年後の足立東高等学校に想いを馳せながら、今いる私ども教職員一同は、ここからまた、日々の教育活動を真摯に取り組んでまいりますことを私が代表し、これより先の“未来の足立東高等学校”と約束することといたします。

結びに、縁あって都立足立東高等学校に集っております私ども教職員にとりまして、このたび創立五十周年を迎えることができましたことは、数多の同窓生や保護者並びに地域の方々と同じく大きな喜びとするところです。私どもは、この都立足立東高等学校を大事に思ってくださっている皆様方と力を合せまして、これから社会を見据えながら都立足立東高等学校らしさを發揮しつつ、更なる教育活動の充実・発展に向け、一層、その歩みを進めてまいります。そして、いつまでも「愛すべき母校」「愛すべき地域の学校」であり続けられるよう教職員一同、誠心誠意日々の教育活動に力を尽くしてまいる所存です。改めまして、同窓生、保護者並びに地域の皆様ほか本校に所縁のある全ての方々の御厚情に感謝申し上げますとともに、今後

とも東京都立足立東高等学校への御理解と御支援を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

## 創立五十周年を迎えるにあたって

副校長 大場 崇博

創立五十周年を迎える年に副校長として勤務できることを本当に幸せに感じます。現在、勤務して2年目となります。足立東高等学校の生徒は心の優しい生徒が多いということを実感しています。

「エンカレッジスクール」ということで、学び直しをするために入学してきたという生徒がたくさん在籍しています。学び直しは、誰かにさせられるものではなく、自分自身の意志で行わなければ実行可能なものではありません。ただ、一人だけでの努力では途中で心が折れてしまることがあるかもしれません。しかし、本校の生徒は言葉を掛け合い、お互いに協力しながら困難を乗り越えようとする姿を何度も目にすることができます。他者を思いやる心、他者を敬う心、そして、自分から手を差し伸べ助けることができる優しい心をもっている足立東高等学校の生徒は、本当に立派だと感じております。この心は一生大切にしていってほしいと願っております。

高校3年間を終え、卒業していく際、「楽しかった」「満足した」「やり遂げた」と思えるよう、本校教職員はすべての教育活動に邁進しています。これからも、保護者の皆様・地域の皆様の御理解・御協力をいただきながら生徒が輝いた学校生活となるよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 創立五十周年を迎えて

副校長 倉持 佳正

私は、本校が創立五十周年を迎える今年度、副校長として着任いたしました。東京都の教員として長年務めてまいりましたが、エンカレッジスクールというタイプの高校に勤務するのは初めてです。着任から数ヵ月が経ちましたが、足立東高校の生徒たちを見ていると、多くの生徒が礼儀正しく、授業や学校行事に真剣に取組もうという気持ちが感じられます。小学校、中学校在学中も真剣に取組もうという気持ちはあるのだけれども、なかなか結果を出せないうちに、高校受験を迎ってしまったという生徒が多いのではないかと感じています。

30年くらい前までは、高等学校の教育内容も単純に数通りのパターンで行い、生徒もそれを受け入れていれば、希望の進路実現が叶うという時代でした。現代は、社会全体が複雑になり、様々な種類の仕事に就くことができるようになりましたが、それを選択すること、持続していくことが以前より難しくなっているのではないかと思います。一人でも多くの足立東高校の生徒たちが、社会に出て不自由することなく、生活していくように、微力ながら支援していくことができればと考えています。また、足立東高校が今後創立百周年、二百周年と長く続くことを願っております。

## 学び直しで未来を変える

足立東高等学校が創立五十周年を迎えることを心からお祝い申し上げます。私は令和2年度から6年度までの5年間を、校長として足立東で在職させていただいただけに、その感慨もひとしおです。

思い返せば、着任当初は新型コロナウイルスが猛威を振るう中、緊急事態宣言が繰り返され、苦難のスタートを切りました。しかし、その後、少しずつ「学校の日常」を取り戻される中で、本校の課題が明らかになってきました。

ベネッセの基礎力診断テストの結果によると、本校生徒の入学時のG T Z（学習到達ゾーン）は約90%がDゾーンであり、そのうち半数が最下位層のD3です。「学び直し」の学校なので、それ自体はやむを得ないかもしれません、問題なのは「その比率が卒業時までほとんど変化していない」ということです。そして何より私が耐え難かったことは、生徒たちがその現状に浸かり切り、劣等感や諦めムードが蔓延していたことでした。学び直しの学校なのに本当に学び直しができているのか。これは本校の存在意義に関わる問題です。「勉強ができなかつた、苦手だった、という過去は変えられない。しかし『学び直し』によって生徒の未来を変えることはできる。」「できない生徒をできないまま卒業させない。」これが当時、学校改革を決意した際の私の心境でした。

令和4年度から「脱D3」を合言葉に学力向上策に舵を切りました。新学習指導要領の実施に合わせ、スタディ・ガイダンスにベネッセのマナトレを導入。学力向上委員会を発足し、学力向上シートをもとに基礎力診断テストの結果を定点観測、「D3を減らす取組み」と「D2以上の生徒を伸ばす取組み」を協議し、授業改善に活かしてきました。さらに年3回の基礎力診断テストをク

## 第14代校長 平田 誠一

ラスマッチ（団体戦）形式にし、生徒の競争心に訴えかける仕掛けとしました。進路指導部を「進路・学習部」に改編し、これらの取組みを進行管理するとともに、生徒には「高校生手帳」を導入し、スケジュール管理能力の向上を促しました。また、東京都教育委員会の学力向上研究校事業を活用し、放課後にマナビバ（校内寺子屋）を開講し、学び直しのセーフティ・ネットとしています。そして、これらの学力向上に向けた取組みを『シン・アダチヒガシ』と命名しました。

不思議なもので、基礎学力の向上と比例して、生徒の自己肯定感や自己有用感も年々高まってきたように感じています。そしてその自尊感情（自信）が足立東に対する「帰属意識」や「愛校心」へと昇華し、学校行事もどんどん盛り上がり上がっていました。生徒の進路決定先とG T Zの相関表からも、進路決定率の伸びが顕著に見て取れます。この学校改革に協力し、成功に導いてくれた先生方に心から感謝申し上げるとともに、この流れが創立五十周年式典の成功につながってくれるとしたら、これに勝る喜びはありません。

結びになりますが、次の50年に向けて、足立東高等学校の益々の御発展を心より祈念いたしております。



## 本当の優しさ

PTA会長 中川 崇

この度は東京都立足立東高等学校創立五十周年誠におめでとうございます。

記念誌ということで、どのような内容をお伝えすればいいか悩みに悩んだのですが、なかなか思い浮かびませんでしたので、私の好きなアーティストの歌詞について少しお話をさせていただきたく思います。

「本当の自分を知られることで 離れていくその程度の人なら 本当の自分を教えて離れてしまえばいい 本当の自分を閉じ込めてでも愛されたいと願う人のため それだけのために変わっていければいい」※

この楽曲を歌うアーティストは、現在も最前线で全力の音楽を、真っすぐな想いをたくさんの人たちの元に届け続けている、私の憧れの存在です。

関わる人全てに同じように接し、同じように優しくできれば、それに越したことはないでしょう。しかし、家庭・学校・社会、誰でも人に嫌われるのは嫌で、無意識に無理をし、本当の自分を覆い隠し日々を過ごしている人も少なくないのではないかと思います。

私も少し前まではそのうちの一人でした。現在、地球上には約81億の人がおり、そのうち日本の人口は約1億2千万、単純計算で80歳まで生きた場合、一人一人と関わる時間は約4時間ほどです。

全ての人とその程度の時間を過ごしたところで、本当の意味での人間関係は築くことができません。限られた時間を有意義に過ごすためにまずは自分を大事にし、自分に優しく、正直に生きることも大事なのではないかと思いました。

なぜそう思うかというと、自分を大事にできない人が他者を大事にすることなんてできないのではないか？ そう思うからです。

楽曲を聞き歌詞を読むと、誰とどう過ごすか・

誰にどう思いを伝えるか・自分にとって大事な人との大事な時間とは何かということを考え、誰にでも良い顔をする八方美人な自分を捨て、人との接し方、付き合い方を変えることで、少し肩の荷が下り、シンプルに物事を考えられるようになった気がします。

先ほどの歌詞に対し解釈は様々で、私の考え方が正解ではありませんし、今の自分の生き方が正解とも限りません。ですが、もしこの原稿を読んで思うところや感じる部分があったならば、皆様も「本当の優しさ」についてほんの少し考えてみてください。

長々とまとまりのない話になってしましましたが、最後まで読んでいただきありがとうございました。

改めまして、この度は東京都立足立東高等学校創立五十周年誠におめでとうございます。

※引用 アーティスト『UVERworld』の楽曲  
「Eye's Sentry」の歌詞より抜粋

## 創立五十周年に寄せて

同窓会東輝会会长 鶴岡 聰

東京都立足立東高等学校創立五十周年、誠におめでとうございます。この50年間で様々な出来事がありました。記憶に新しいのは新型コロナウイルスの流行ではないでしょうか。このいわゆるコロナ禍の影響で卒業式や入学式はもちろんのこと、あらゆる行事が中止や縮小となりました。授業もリモートで行われるなど、今まで当たり前のようにできたことが全くできないという大変厳しい時期がありました。これは生徒の皆様だけではなく教職員の皆様にとっても厳しく辛い時期だったのではないでしょうか。この厳しい時期を乗り越えることができたのは学校関係各位の御尽力と、地域の皆様、保護者の皆様の御協力があつてこそのことだと思います。

またこの50年で学校も変化を遂げました。昭和51年に第一期生が入学した時は校舎の工事も終わっておらず、水元高校の仮校舎で授業を行っていたとのこと。まさに前途多難の舟出だったかもしれません。その後少子化の時代の流れとともに生徒数が減少し、一時は存続の危機にあったという話を聞いております。そのような時、東京都教育委員会よりエンカレッジスクールの指定を受け、平成15年4月よりエンカレッジスクールとして新たな道を歩み始めました。

その時々、時代の流れや社会の変化に対応してこられた歴代の教職員の皆様の生徒に寄り添い、見守り、育成に励んでこられた熱い想いが50周年という大きな実を結んだのだと確信しております。今後も60年70年と母校の益々の発展と、生徒の皆様、教職員の皆様、そして卒業生の皆様の御活躍と御多幸を

心よりお祈り申し上げるとともに、同窓会としても微力ではございますが、母校の発展に寄与できるような活動をしていきたいと考えています。

## 沿革

- 昭和50. 11. 1 公立高等学校長（前教育庁指導部主任指導主事）宮崎 四郎、東京都立足立東高等学校（仮称）の開設を命じられる  
東京都立足立西高等学校内に開設事務所を置く
50. 12. 20 東京都立学校設置条例一部改正  
宮崎 四郎、初代校長となる
51. 3. 12 開設事務所を、東京都立水元高等学校内に移転する
51. 4. 9 東京都立水元高等学校体育館において、第1回入学式を挙行する  
7学級編成、男子162名、女子154名
51. 4. 10 東京都立水元高等学校内仮校舎で、授業を開始する
51. 8. 26 校舎第1期工事（普通教室21、他に特別教室、校長室、職員室等）完成  
東京都立水元高等学校内仮校舎より本校舎に移転する
52. 4. 8 荒川区民会館において、第2回入学式を挙行する
52. 10. 3 第2期工事完成（体育館、含格技場）
53. 3. 31 第3期工事完成（プール、テニスコート、バレーコート、屋外運動場、外周フェンス）
53. 9. 29 開校記念式典挙行
54. 3. 12 第1回卒業証書授与式挙行
55. 3. 11 第2回卒業証書授与式挙行
55. 11. 12 新視聴覚室完成
56. 3. 11 第3回卒業証書授与式挙行
56. 4. 1 初代校長 宮崎 四郎 転出、2代校長 吉田 良夫 着任
57. 3. 9 第4回卒業証書授与式挙行
58. 3. 9 第5回卒業証書授与式挙行
59. 3. 9 第6回卒業証書授与式挙行
60. 3. 9 第7回卒業証書授与式挙行
60. 3. 31 第2代校長 吉田 良夫 退職
60. 4. 1 第3代校長 西山 孝 着任
60. 11. 9 創立10周年記念式典挙行
61. 3. 8 第8回卒業証書授与式挙行
62. 3. 9 第9回卒業証書授与式挙行
63. 3. 9 第10回卒業証書授与式挙行
63. 4. 1 第3代校長 西山 孝 転出、4代校長 川名 幸雄 着任
- 平成元. 3. 8 第11回卒業証書授与式挙行
2. 3. 7 第12回卒業証書授与式挙行
3. 3. 12 第13回卒業証書授与式挙行
3. 4. 1 第4代校長 川名 幸雄 転出、5代校長 島根岱助 着任
4. 3. 12 第14回卒業証書授与式挙行
5. 3. 11 第15回卒業証書授与式挙行
6. 3. 11 第16回卒業証書授与式挙行
6. 4. 1 第5代校長 島根岱助 転出、6代校長 宮崎 宏一 着任
7. 3. 10 第17回卒業証書授与式挙行
7. 11. 18 創立20周年記念式典挙行
8. 3. 11 第18回卒業証書授与式挙行
9. 3. 11 第19回卒業証書授与式挙行
9. 3. 31 第6代校長 宮崎 宏一 退職
9. 4. 1 第7代校長 鈴木 斎 着任
10. 3. 4 第20回卒業証書授与式挙行

11. 3. 9 第21回卒業証書授与式挙行  
 12. 3. 7 第22回卒業証書授与式挙行  
 12. 4. 1 第7代校長 鈴木 斎 転出、8代校長 嶋 英樹 着任  
 13. 3. 6 第23回卒業証書授与式挙行  
 13. 7. 10 校舎大規模改修工事A工区開始  
 14. 3. 1 第24回卒業証書授与式挙行  
 14. 3. 18 校舎大規模改修工事A工区完成、B工区開始  
 14. 6. 27 東京都教育委員会よりエンカレッジスクールの指定を受ける。  
 14. 8. 26 B工区完成、C工区開始（外構）  
 15. 3. 13 第25回卒業証書授与式挙行  
 15. 4. 8 エンカレッジスクール第一期生（5学級編成）  
     男子80名、女子119名入学式を挙行する。  
 16. 3. 8 第26回卒業証書授与式挙行  
 16. 3. 31 第8代校長 嶋 英樹 退職  
 16. 4. 1 第9代校長 星野 喜代美 着任  
 17. 3. 3 第27回卒業証書授与式挙行  
 17. 11. 26 創立30周年記念式典挙行  
 18. 3. 3 第28回卒業証書授与式挙行  
 19. 3. 3 第29回卒業証書授与式挙行  
 19. 4. 1 第9代校長 星野 喜代美 転出、10代校長 清水頭 賢二 着任  
 20. 3. 4 第30回卒業証書授与式挙行  
 21. 3. 5 第31回卒業証書授与式挙行  
 22. 3. 3 第32回卒業証書授与式挙行  
 23. 3. 3 第33回卒業証書授与式挙行  
 23. 3. 31 第10代校長 清水頭 賢二 退職  
 23. 4. 1 第11代校長 竹原 勝博 着任  
 24. 3. 2 第34回卒業証書授与式挙行  
 25. 3. 1 第35回卒業証書授与式挙行  
 26. 3. 4 第36回卒業証書授与式挙行  
 26. 4. 1 第11代校長 竹原 勝博 転出、12代校長 高坂 仁 着任  
 27. 3. 4 第37回卒業証書授与式挙行  
 27. 11. 21 創立40周年記念式典挙行  
 28. 3. 4 第38回卒業証書授与式挙行  
 29. 3. 3 第39回卒業証書授与式挙行  
 29. 4. 1 第12代校長 高坂 仁 転出、13代校長 小塩 明伸 着任  
 30. 3. 2 第40回卒業証書授与式挙行  
 31. 3. 5 第41回卒業証書授与式挙行  
 令和 2. 3. 5 第42回卒業証書授与式挙行  
 2. 4. 1 第13代校長 小塩 明伸 転出、14代校長 平田 誠一 着任  
 3. 3. 5 第43回卒業証書授与式挙行  
 4. 3. 4 第44回卒業証書授与式挙行  
 5. 3. 3 第45回卒業証書授与式挙行  
 6. 3. 5 第46回卒業証書授与式挙行  
 7. 3. 5 第47回卒業証書授与式挙行  
 7. 4. 1 第14代校長 平田 誠一 転出、15代校長 鈴木 康司 着任

## 教務部

### とかく教育課程はままならぬ

前教務主任 和田 稔  
(現都立橘高等学校 副校長)

平成28年から令和7年にかけて、学習指導要領の改訂により、教育課程は大きな変化を遂げた。平成20年に告示された学習指導要領では、「生きる力」の育成を重視し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力その他の能力をばくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことが目標とされていた。平成30年に告示され、令和4年度から高校で本格的に実施された新学習指導要領では、社会の変化が激しく、予測困難な時代を生き抜くために必要な資質・能力を育むことを目的とし、これまでの「知識・技能」に加え、それらを活用する「思考力・判断力・表現力」、そして学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」をバランスよく育むことが強く意識されるようになった。

本校のカリキュラムは、一般の高校では1年間で学ぶ内容を、中学校の内容を含めて2年間かけてじっくりと学ぶ、学び直しに特化したものである。今回の改訂も、従前の教育課程に沿った形での編成を目指し、令和2年から作業に取り組んだ。同年から始まったコロナ禍による混乱を教訓に、それまで2年次に設置していた

「社会と情報」を「情報I」として1年次に設置した。地理歴史や公民、外国語(英語)などは、従来の科目との置き換えで対応した。最も苦労したのは科目が大きく変わった国語の編成である【表1】。表中の(標準)とは学習指導要領で定められている標準単位数のことで( )で表している。右側の数字は本校で実際に設定している単位数である。特に選択科目については標準単位数とは大きく異なる(4→2)。

表を見てもわかる通り、本校では単位数を柔軟に運用していたが、新しい教育課程では、特に単位数を減じること(減算)については原則として認められないとのことであった。最終の提出締め切りが迫る中で窮余の一策として生まれたのが【表2】である。国語の単位数を1増やす代わりに、英語の単位数を1減らし、選択

科目は全て学校設定科目として2単位で設置した。こう書くと非常に簡単な作業に思えるが、教科間で単位数を増減させることは、時間割を一から組み直すことを意味し、学校設定科目は修得単位数に制限があるため、おいそれと増やすことはできない。調整に調整を重ねて、どうにか捻出した結果である。エンカレッジスクールは学び直しという特色ゆえに、教育課程の編成も工夫が必要である。次の改訂の際にはさらなる改良が施された教育課程になるよう、未來の教務主任に期待したい。

旧科目 (標準)		新科目 (標準)	
国語総合(4)	6	現代の国語(2)	3
		言語文化(2)	3
現代文B(4)	3	文学国語(4)	3
●国語表現(3)	2	●国語表現(4)	2
●古典A(2)	2	●古典探究(4)	2
		●論理国語(4)	2

【表1】●は選択科目

旧科目 (標準)		新科目 (標準)	
国語総合(4)	6	現代の国語(2)	3
		言語文化(2)	3
現代文B(4)	3	文学国語(4)	4
●国語表現(3)	2	●*国語と表現	2
●古典A(2)	2	●*古典の探究	2
		●*国語の論理	2

【表2】\*は学校設定科目

## 旧教育課程表

(平成24年度～令和3年度まで)

教科	科目	標準単位数	1学年		2学年		3学年			※科目ごと 単位総数
			必履修	学校必履修	必履修	学校必履修	必履修	学校必履修	自由選択	
国語	国語 総合	4	3		3					6
	国語 表現	3					2□○	2◇	0～4	
	現代文 B	4					3			3
	古文 A	2			2●		2□			0～4
地理歴史	世界史 A	2			2		2○			2～4
	世界史 B	4						4◇	0～4	
	日本史 B	4					3			3
	地理 A	2	2		2■●		2○	2◇	2～8	
公民	現代社会	2	2		2■		2□			2～6
	政治・経済	2					2	2◇	2～4	
数学	数学 I	3	3			2	2□○	2◇	5～7	
	数学 II	4			2●		2□	4◇	0～8	
	数学 A	2			2■●		2○	2◇	0～6	
	数学 B	2			2■			2◇	0～4	
理科	科学と人間生活	2	2							2
	物理基礎	2			2☆	2●	2○			0～2
	化学基礎	2			2☆	2●	2□			0～2
	化学生物学	4						4◇	0～4	
	生物基礎	2			2☆	2●	2○			0～2
	生物	4						4◇	0～4	
保健体育	体育	7～8	3		3		2			8
	保健	2	1		1					2
芸術	音楽 I	2	2★					2◇	0～2	
	音楽 II	2			2■●					0～2
	音楽 III	2					2□○			0～2
	美術 I	2	2★					2◇	0～2	
	美術 II	2			2■●					0～2
	美術 III	2					2□○			0～2
	書道 I	2	2★					2◇	0～2	
	書道 II	2			2■●					0～2
	書道 III	2					2□			0～2
外国語	コミュニケーション英語 I	3	3		2■●		2□○			3～7
	コミュニケーション英語 II	4			3		3			6
	英語会話	2			2■					0～2
家庭	家庭総合	4	2		2		2□○			4～6
情報	社会と情報	2			2					2
国語	国語探究	2			2■●					0～2
芸術	デザイン	2			2■					0～2
	実用書道	2					2○	2◇	0～2	
総合	キャリアガイダンス	3		1		1		1		3
	スタディガイダンス	3		1		1		1		3
体験学習	体験学習 I	2		2				2◇	2～4	
	体験学習 II	1	2		2					2
	体験学習 II	2				2				2
普通教科・科目単位数計			23	6	15	13	5	14	0～8	76～84
情報	情報の表現と管理	2							2◇	0～2
専門教科	・科目単位数計		0		0		0	0	0～2	0～2
総合的な学習	・探究の時間		0		1		2			3
ホームルーム活動		1		1			1			3
生徒一人当たりの履修単位数計			30		30		22～30		82～90	
習熟度別授業 少人数指導授業			(1)国語総合、現代文B、数学I、コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語IIは2クラス4展開の習熟度別授業。 (2)科学と人間生活、家庭総合は1クラス2展開の少人数授業。 (3)地理A、現代社会、体育は、2クラス3展開の少人数授業。							
備考			(1)国語、英語の1学年配当時数中の2単位分は30分授業を3回で実施。現代社会及び地理Aは30分授業を3回実施。 (2)芸術は★から1科目選択必履修。理科は☆から1科目選択必履修。2学年は■から1科目、●から1科目の計2科目選択必履修。3学年は□から1科目、○から1科目の計2科目の選択必履修。△から8単位まで自由選択。 (3)キャリアガイダンス及びスタディガイダンスはTTで行う。 (4)3年の総合的な学習・探究の時間2単位のうち、1単位は「人間と社会」の内容をTTで行う。 (5)スタディガイダンスは10分授業により週5日実施。 (6)数学Iの必履修内容は第1学年で履修済みであり、第2学年では発展的内容を取り扱う。 (7)数学IIについて、数学Iの内容を修了してから、数学IIの内容を履修する。 (8)3学年自由選択の化学は化学基礎を履修済みの者、生物は生物基礎を履修済みの者が選択可。							

新教育課程表 (令和4年度～現在まで)

教科	科目	標準単位数	1学年		2学年		3学年		※科目ごと 単位総数
			必履修	学校必履修	必履修	学校必履修	必履修	学校必履修	
国語	現代の国語	2	1		2				3
	言語文化	2	2		1				3
	文学国語	4					4		4
地理歴史	地理総合	2	2						2
	歴史総合	2			2				2
	日本史探究	3					3		3
公民	公政・経済	2	2				2		2
数学	数学Ⅰ	3	3		2				5~7
	数学Ⅱ	4					4□○		0~4
	数学A	2			2■●		2○	2◇	0~2
	数学B	2						2◇	0~2
理科	科学と人間生活	2	2						2
	物理基礎	2			2☆ 2●		2○		0~2
	化学基礎	2			2☆ 2●		2□		0~2
	化学生物学	4						4◇	0~4
	生物基礎	2			2☆ 2●		2○		0~2
	地学基礎	2						4◇	0~4
保健体育	体育	7~8	3		3		2		8
	保健	2	1		1				2
芸術	音楽Ⅰ	2	2★					2◇	0~2
	音楽Ⅱ	2			2■●				0~2
	音楽Ⅲ	2					2□○		0~2
	美術Ⅰ	2	2★					2◇	0~2
	美術Ⅱ	2			2■●				0~2
	美術Ⅲ	2					2□○		0~2
	書道Ⅰ	2	2★						0~2
	書道Ⅱ	2			2■●				0~2
	書道Ⅲ	2					2□		0~2
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3						3
	英語コミュニケーションⅡ	4			3		2		5
	論理・表現	2			2■●				0~2
家庭	家庭総合	4	2		2				4
	情報	1	2	2					2
国語	国語探究	2			2■●				0~2
	国語の論理	2					2○		0~2
	国語と表現	2					2□ 2◇		0~2
	古典の探究	2					2□		0~2
地理歴史	教養地理	2			2■		2○		0~2
	世界史基礎	2					2○		0~2
	教養世界史	2						2◇	0~2
公民	現代社会基礎	2			2■		2□		0~2
	進学数学	2					2□○		0~2
外国語	標準英語	2			2■●				0~2
	発展英語	2					2□○		0~2
芸術	デザイン書道	2			2■				0~2
	実用書道	2					2○ 2◇		0~2
総合	キャリアガイダンス	3		1	1		1		3
	スタディガイダンス	3		1	1		1		3
体験学習	体験学習Ⅰ	2		2					2
	体験学習Ⅱ	1	2			2			2
	体験学習Ⅱ	2				2			2
普通教科・科目単位数計			25	4	15	13	2	17	0~8 76~84
家庭	生活産業基礎	2					2□○		0~2
	情報メディアとサビス	2~4						2◇	0~2
専門教科・科目単位数計			0	0	0	0	0~2	0~2	0~4
総合的な探究の時間			0	1		2			3
ホームルーム活動			1	1		1			3
生徒一人当たりの履修単位数計			30	30		22~30			82~90
習熟度別授業 少人数指導授業			(1) 現代の国語、言語文化、文学国語、数学Ⅰ、英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡは2クラス4展開の習熟度別授業。 (2) 科学と人間生活、家庭総合は1クラス2展開の少人数授業。 (3) 地理総合、公共、体育、音楽Ⅰ、美術Ⅰ、書道Ⅰは2クラス3展開の少人数授業。						
備考			(1) 数学Ⅰ、英語コミュニケーションⅠの配当時数中の2単位分は30分授業を3回で実施。言語文化、地理総合、公共は30分授業を3回実施。 (2) 芸術は★から1科目選択必履修。理科は☆から1科目選択必履修。2学年は■から1科目、●から1科目的計2科目選択必履修。3学年は□から1科目、○から1科目的計2科目の選択必履修。◇から8単位まで自由選択。 (3) キャリアガイダンス及びスタディガイダンスはTTで行う。 (4) 3学年の総合的な探究の時間2単位のうち、1単位は「人間と社会」の内容をTTで行う。 (5) スタディガイダンスは10分授業により週5日実施。 (6) 数学Ⅱについて、数学Ⅰの内容を修了してから、数学Ⅱの内容を履修する。 (7) 3学年自由選択の化学は化学基礎を履修済みの者、生物は生物基礎を履修済みの者が選択可。						

## 体験学習Ⅰ

1学年主任 荒原 一美

第1学年では、令和7年度、毎週火曜日5・6限に「体験学習Ⅰ」という授業を行っています。

個性・資質・能力の伸長と進路意識の向上を目指し、スポーツ分野、文化、芸術など興味あるものを選んで学習しています。

通年で行う授業や前後期に分けて行う授業もあり、生徒たちは多種多様な経験ができます。

また市民講師の方が指導する授業も多くあります。特徴として、芸道を極めた師範代やプロの方等から文化教養を学ぶことができます。

生徒たちにとっては、いつも交流する学級担任や教科担当教員だけでなく、校内の様々な先生たちと交流するきっかけづくりにもなります。学校全体で生徒を見守る機会にもなっています。

### 【体験学習Ⅰ】

- 1 ニュースポーツ
- 2 トレーニング
- 3 演劇（通年）
- 4 絵画（通年）
- 5 コンテンツ制作
- 6 吹奏楽（通年）
- 7 合唱
- 8 手芸
- 9 科学
- 10 囲碁（通年）
- 11 茶道（通年）

12 和太鼓

13 箏曲

14 簿笛（通年）

15 民謡（通年）

16 和算

17 篆刻



## 体験学習Ⅰ発表会

1学年の体験学習Ⅰでは、2月の体験学習発表会において、1年間の授業の成果を発表しています。



## 体験学習Ⅱ

2学年主任 小松崎 豊

体験学習Ⅱは、「将来のためになる技術・資格・職業観を身に付ける」ことをテーマとし、職業体験や職業技術、資格・検定の取得をとおし、生活の基礎を養うとともに、社会的模範意識を育て、進路における目的意識を確立するねらいがある。また、自己の在り方・生き方を見つめるとともに、自己の特性を理解することも学んでいく授業である。

各講座は教員だけでなく、市民講師の先生方に毎時間来ていただき、専門家としての指導を受けることができる。

また、講座の中には外部施設を利用させていただき、授業展開をしている。保育園や福祉施設、自動車専門学校など、現場に行っての体験は有意義である。

体験学習の授業が始まったのは、平成15年に本校がエンカレッジスクールとしてスタートした時であり、対象の学年や講座内容は生徒にとってより良い形を目指し、現在まで様々に変遷している。現在は1年生で体験学習Ⅰ、2年生で体験学習Ⅱ－1・Ⅱ－2が必修科目となっており、前期・後期で講座が変わるものと、通年で学ぶものがある。

令和7年度に実施している講座は、体験学習Ⅱ－1が16講座・体験学習Ⅱ－2が17講座である。



保育園にて実習



福祉施設にて実習



「クラフト」でのベン立てづくり

## 【体験学習 II – 1・2】

### ○職業体験講座

「整備・工業技術」

「保育」

「福祉（高齢者・障害者）」

### ○職業技術講座

「園芸農業」

「手話」

「クラフト」

「保育音楽」

「色彩基礎」

「Web デザイン基礎」

（体験学習 II – 1 のみ）

「ライフ・スキル・プログラム」

（体験学習 II – 1 のみ）

「ワーク・チャレンジ・プログラム」

（体験学習 II – 2 のみ）



「園芸農業」での野菜づくり

### ○資格・検定講座

「漢字・日本語検定」

（体験学習 II – 1 のみ）

「ペン習字」

「英語の資格」

「保育検定」（体験学習 II – 1 のみ）

「情報検定」（体験学習 II – 1 のみ）

「電卓基礎」

「文書・論理検定」

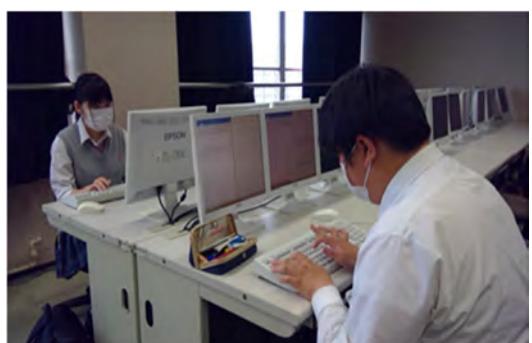
（体験学習 II – 2 のみ）

「ニュース検定」（体験学習 II – 2 のみ）

「歴史検定」（体験学習 II – 2 のみ）

「数学検定」（体験学習 II – 2 のみ）

「理科検定」（体験学習 II – 2 のみ）



「情報検定」での様子



「色彩基礎」での活動



「電卓基礎」での様子

## 生活指導部

### 足立東高校生徒会活動

生活指導部 後藤 大騎

足立東高校の生徒会は、全校生徒を会員とし、執行部が会員を代表して様々な活動に取り組んできた。ここに至るまでに、多くの生徒、教員の熱意と努力があったことは想像に難くない。第49代までの生徒会の理念と活動は、新たに発足する第50代生徒会が受け継ぎ、さらに次の代に向けて一層の発展を見せるであろう。

#### 「新入生歓迎会」

毎年実施される新入生歓迎会では、生徒会執行部や委員会、部活動の紹介を行いました。新入生の皆さんには緊張していたように見えました。部活動紹介では、どの部活動も自分の活動の良さを精一杯紹介していました。生徒会役員は会場準備や舞台裏での照明や幕などの操作を担当しました。新入生にとっては少しでも学校のことを知れた良い機会になったと思います。

【第49代生徒会 副会長 加藤 琳】

#### 「学校行事・ボランティア活動」

私たち生徒会執行部は、学校行事の運営などの校内での活動だけでなく、地域のボランティア活動といった校外での活動にも取り組んでいます。

学校内では、入学式での校歌紹介や生徒総会の運営などを行っています。また、学校説明会では、来校した中学生やその保護者の方の誘導や校内見学ツアーなどを担当しています。この活動では、中学生の方々に足立東高校の楽しさや魅力を少しでも伝えられるように先生方と協力しています。

生徒と交流したり、地域の皆さんに貢献したりすることができました。

今後も学校行事や地域のボランティアへの参加を積極的に行っていきたいと考えています。

【第49代生徒会 副会長 防越 香帆】

#### 「総括」

生徒会執行部では、夏・冬にある学校説明会、赤い羽根共同募金、オールあだち文化祭の運営スタッフ、対面式、新入生歓迎会などに取り組みました。その中で、前の年度より活動の範囲を拡大することを心掛けました。その結果、生徒会執行部の取り組みが積極的になっていっただけでなく、足立東高校の生徒一人一人が協力する意識も高まりました。

生徒会執行部はボランティア部をはじめとする部活動と協力しての活動にも力を入れました。そのため先輩・後輩にかかわらずクラスや学年を超えた連携ができるようになりました。誰もが責任を全うするようになりました。活動に際して難しいことやできないことにも直面しました。しかし、互いに話し合い、先生にも協力を求めて解決していました。今後の生徒会も、何事も諦めずに、足立東高校らしさである元気、本気、やる気を糧に互いに助け合いながら意欲的に取り組んでほしいと思います。

【第49代生徒会 会長 岡名 香々】



## 部活動

### バドミントン部

この10年間、人数の増減はあれど、継続的に大会に出場し、夏季合宿も恒例行事となりました。コロナ禍を経て、部活動の方針や活動内容を一新。「公式戦で勝ち上がる」ことを目標に、ルールや練習を変えてきました。スポーツは勝ち負けがあり、努力が必ずしも実るものではありません。それでも頑張る意味、クラブチームではなく「部活動」として活動することの意義は何だろう。そんなことを、顧問・生徒ともに考え続けながら歴史を重ねてきました。令和4年度から徐々に結果に現われ始め、冬季ブロック大会でブロック準優勝、新人戦Ⅱ部大会個人戦でブロックベスト8、インターハイ予選（団体）は3回戦進出。足立区民大会でも準優勝の成績を収めました。大会結果だけを見れば強豪校には程遠い実力ではあります。しかし、エンカレッジスクールで部活動に打ち込む生徒の姿は、大会実績以上の価値があるように思います。苦しい練習を積み重ね、人間関係に悩みながら、うまくいかない自分と向き合い、3年間で立派に成長していく部員たちの姿は、胸打つものがあります。「失敗を恐れず 日々成長 日々努力」と掲げたスローガンに偽りなく、更なる躍進を遂げられるよう尽力していきます。



### 卓球部

過去5年間ではシングルス、ダブルスとともに大会での勝利が見られ、シングルスでは最高6回戦に進出するなどの好成績を収めていた。しかし、令和6年度から部員数が大幅に減少し、3年生の引退後は部員数が1名になってしまった。廃部の危機もあったが、令和7年度には6名の新入部員を迎えることができ、少しずつではあるが、かつての活気を取り戻しつつある状況である。

経験者は少なくなってしまったが、卒業生や本校OBの指導員からの熱心なアドバイスをもらいながら、基本的な技術の習得に日々努力している。令和7年度は公式戦出場を目指に見据えて基礎固めの1年間とし、来年度以降は公式戦での勝利を目指して日々練習に励んでいく。



## 陸上競技部

### ◎主な実績

平成 28 年度

- ・東京都新人陸上競技対抗選手権

ハンマー投げ 7 位

平成 30 年度

- ・東京都新人陸上競技対抗選手権

砲丸投げ 7 位

令和元年度

- ・東京都陸上競技対抗選手権

砲丸投げ 5 位

令和 3 年度

- ・東京都新人陸上競技対抗選手権

砲丸投げ 4 位

令和 4 年度

- ・東京都陸上競技対抗選手権

砲丸投げ 6 位

50 年の間、陸上競技部が隆盛を成した時期があった。平成 21 年度頃に女子 100 ハードルで関東大会に出場をスタートに、平成 25 年度には関東新人大会で陸上部として初優勝を飾っている。ここ 10 年に関しては、令和 4 年度を最後に、関東大会に出場はおろか、部員数も年々減少している状況であった。そのような中、令和 6 年度から陸上経験のある教員が 4 人体制で、それぞれの専門性を活かしながら、指導を行い、部員数も増えてきたことから、ここ数年出場できていなかった支部新春駅伝や女子の 4 × 100m リレーに出場するなど、復活の兆しが見えていく。令和 7 年度には、昨年度東京都中学ランキング上位に入った生徒が本校に入学し、順調にいけば、関東大会、全国大会出場も見えている。

今後もインターハイ出場を最大目標とし、日々の練習を懸命に励んでいく。



## ダンス部

外部指導員の指導のもと、「大会入賞」を目標に、毎年大会に出場しています。学校行事においても、東輝祭や、3 月に行われる定期演奏会に参加し、様々なジャンルのダンスを披露しています。

ダンス経験の有無にかかわらず、全員で衣装や振り付けなどを考えながら活動しており、技術の向上だけでなく、コミュニケーション能力や主体性を養うことも大切にして、今後も活動していきます。



## ボクシング部

ボクシング部は主に11月の新人戦、4月に行われる関東大会予選、夏の東京都ボクシング選手権の年に3回の大会に出場しております。中でも令和の年号に入り選手に恵まれた結果、春の選抜大会に1回、夏のインターハイに3回出場することができました。また、令和6年には本校卒業生の武居由樹選手がWBOバンタム級の世界チャンピオンのベルトを巻きました。この輝かしいボクシング部の歴史を絶やさぬよう今後とも精進していきたいと思います。



## バスケットボール部

人数は少ないが、基本的な戦術を練習している。一人一人が、自覚と責任をもって各種大会に出場している。部活動をとおして帰属意識を高め、生徒の主体性やコミュニケーション能力の向上も目指し、日々練習に励んでいる。今後の目標は、部員の人数を増やし、継続的な活動を行っていき、部訓「PLAY HARD!! 一生懸命を楽しむ！！」精神で公式戦での1勝を目指す。



## 硬式テニス部

硬式テニス部は、テニスを楽しみながら勝利を目指し、礼儀作法を学び、生涯スポーツとして一生続けられるようにすることを目標としています。近年、部員数は非常に少ない状況ですが、部員一人ひとりが一生懸命取り組んでいます。部活動の実績としては、最高で4回戦進出を果たしました。技術の向上だけでなく、心の成長も重視しており、部員たちは互いに支え合いながら成長しています。

例えば、ある部員が試合で敗れた際、悔しさを乗り越えて仲間とともに練習を続け、次の試合で見事に勝利を収めました。この経験を通じて、その部員は諦めずに努力することの大切さを学びました。また、試合後に相手チームへの感謝の気持ちを表すことで、スポーツmanshipを身に付けることができました。

部員数は少人数ながらも熱心に活動しており、部員たちは日々の練習や試合を通じて技術と心を磨いています。これからも、技術と心の両面で成長できる部活動を目指し、部員たちが一丸となって努力を続けていきます。



## バレーボール部

練習日は、月・水・木・日の週4日間、男女合同で活動している。

日曜日以外には部活動指導員の方にバレーボールの基本動作だけではなく、ルールや試合での戦術など多岐にわたり指導していただいている。

### ◎活動実績

(高体連主催大会)

男子

①関東大会東京都予選会

②全国高等学校総合体育大会兼国体東京都予選

③全日本バレー ボール高等学校選手権大会一次予選  
選

④新人大会(一次大会)

女子

①春季大会兼関東大会予選

②全国高等学校総合体育大会兼国体東京都予選

③夏季大会

④新人リーグ戦兼新人選手権大会予選

(その他主催大会)

男女

①都立高校大会 ②足立区民大会

③江戸川区近隣大会 ④MAKENAI cup

令和7年度部員数

1年生男子1名・女子3名

2年生男子11名・女子5名

3年生男子2名・女子1名

合計23名

### ◎大会実績

男子

①関東大会予選会

令和7年度1回戦敗退

②全国高等学校総合体育大会兼国体東京都予選

令和6年度1回戦敗退

令和7年度1回戦敗退

③全日本バレー ボール高等学校選手権大会一次予選  
選

令和6年度2回戦敗退

④新人大会(一次大会)

令和6年度1回戦敗退

### 女子

①春季大会兼関東大会予選

令和7年度予選1位

本選1回戦敗退 (ベスト64)

②東京都高等学校総合体育大会兼全国高等学校総合体育大会予選兼国民スポーツ大会予選

令和6年度1回戦敗退

令和7年度3回戦敗退 (ベスト64)

③夏季大会

令和6年度1回戦敗退

④新人リーグ戦兼新人選手権大会予選

令和6年度リーグ2位



## 硬式野球部

人数不足のため、近年は連合チームを結成し、各種大会に出場している。大会ごとにチームが変わるために、多くの仲間や先生方と関わることができる。野球の技術だけではなく、コミュニケーション能力の向上も目指し、日々練習に励んでいる。今後の目標は、9人の部員を集めて単独チームでの出場を果たし、公式戦での1勝を目指すことである。



今後は「誰からも応援されるチーム」を目指して、公式戦で1勝できるように日々の練習に精進していく。



## サッカーチーム

近年、サッカーチームでは人数不足のため、公式戦で思うような成績が残せずにいる。しかし、足立東高校サッカーチームの長い歴史の中で様々な先生方がつないできたバトンを絶やすことなく、次世代につないでいきたいと考えている。

## 軽音楽部(音楽館)

顧問の指導のもと、文化祭出場や大会での入賞等それぞれの目標に向かって日々練習に励んでいます。部員は現在、3年生8名、2年生4名、1年生10名の計22名です。活動日は週に5日、バンドごとに活動しています。令和7年度に、西新井文化ホールで行われた、第12回あだちけいおんフェスティバルオズカップ2025にて初優勝を果たしました。



## 吹奏楽部

現在、吹奏楽部は 13 名で活動をしています。少人数ではありますが、夏のコンクールには毎年出場し、外部の演奏会や定期演奏会など、積極的に活動をしています。初心者も経験者も一緒にになって、一つの音楽を作り上げる楽しさや、音楽を好きと思う人が集まって活動ができる奇跡に感謝をしながら、日々練習に励んでいます。

吹奏楽部は「部活への熱意を大事に、メリハリをもち、みんなで支え合いながら築いていく」を目標にしています。決して楽しいことだけではない部活動ですが、どのような時もみんなで支え合いながら、ひたむきに音楽と向き合っています。また、4名の部活動指導員の御指導のもと、個人レッスンや全体レッスンを行い、バンドとしてのレベルを上げています。私たちの活動は、自分や仲間のために努力をしないと成り立ちませんが、何より聴きに来てくれるお客様がいないと成り立ちません。お客様に良い音楽を届けたい気持ちを忘れることなく、日々の活動を大切にしていきたいと思います。



## 和太鼓部

和太鼓部は、部員数 10 名で、週に 3 日活動しています。生徒たちは日々の稽古を通じて、技術の向上のみならず、礼儀・協調性・忍耐力を体得し、仲間とともに心を一つにする大切さを学んでおります。

部活動指導員の指導を受け、東輝祭（文化祭）や地域行事等で、日頃の稽古の成果を発表しています。

今後も、足立東高校の文化的伝統の一翼を担う存在として、力強く調和のとれた音色をもって多くの方々に感動を届けてまいります。



## 箏曲部

部活動指導員の指導のもと、琴や三味線の練習を行っています。練習の成果は、発表会や定期演奏会で披露します。5月に亀有のリリオホールで行われた「綾の会おさらい会」では、入部したばかりの1年生も参加し、先輩の助けを借りながら「花かげ変奏曲」を、お客様の前で素敵に演奏することができました。生徒同士が仲良く、とてもアットホームな部活動です。



## 美術部

美術部では例年、高文連主催の中央展に出展するために、制作に励んでいます。また校内では東輝祭での展示を行います。

令和6年度は、3学年が3名卒業し部員が0人になってしまう恐れがありましたが、令和7年度、新しく2学年1名、1学年1名が入部しました。少人数ですが、コツコツと作品を描いております。今年度は体育祭の部活対抗リレーで顧問と一緒に走るなど、楽しい活動にも挑戦しています。



## イラスト研究部

イラスト研究部は、マンガやアニメ、ゲームに関心をもつ生徒たちの交流と創作の場として、毎週火曜日と金曜日に活動しています。主な取組は、部誌の発刊に向けたイラスト制作であり、部員たちは各自の感性や表現力を活かしながら作品づくりに励んでいます。

東輝祭では、イラストの展示に加え、来場者が参加できる体験型イベントも企画・運営しており、創作活動の楽しさを広く発信しています。また、近年では映像作品の制作にも取り組み、表現の幅をさらに広げています。



## ボランティア部

ボランティア部は「謙虚さを忘れず思いやりをもって地域貢献をする」を目標に、様々な地域貢献活動に積極的に参加している。具体的には足立区役所や地域自治会等と連携し、お祭りの運営の手伝いをしたり、地域の小学校にて学習支援のボランティアを行ったりしている。

また、校内では朝の時間にゴミ拾い活動を行ったり、赤い羽根募金を行ったりするなど、率先して人の役に立ちたいという意識が芽生えている。

地域の若い人材として期待されるようにこれからも地域貢献活動に励んでいく。



## 茶道部

本校茶道部は、創部時より御指導いただいた岩佐柳朋先生に代わり、平成30年度より、表千家不白流師範清水美恵子先生に御指導いただいている。茶道部では、日本の伝統文化である茶道の作法をお稽古しながら、美しい日本語の使い方や季節の花の名前なども学ぶ。1年生から3年生まで仲良く温かい雰囲気の中で「和敬清寂」のおもてなしの心を学んでいる。

日々のお稽古の成果であるお点前披露の機会として、毎年本校文化祭での茶会にお客様を御招待してきた。令和6年から再開された校外イベントでの茶会には、コロナ禍で茶会が実施されず残念な思いをしてきた卒業生も参加し、お点前を披露することができた。

### ◎活動実績

- ・足立区立郷土博物館 臨済亭 初釜茶会
- ・足立区学びピア 21 お正月イベント  
お茶会&茶道体験
- ・足立区梅まつり 野点茶会
- ・ヨルダン、インドネシア高校生来校  
歓迎茶会&茶道体験



## 家庭科部

ファッショングの活動では、生徒自らが考え計画を立て、被服の製作や洋服のリメイクを行っています。

クッキングの活動では、部員同士が協力をしながら、様々な国や地域のお菓子作りに励んでいます。活動の成果は、文化祭での展示・販売で披露します。部員同士助け合うことのできる、和やかな雰囲気の部活動です。



## 演劇部

「すばらしき演劇を」届けられるよう日々脚本の構想を練ったり、声出しの練習を行ったりしている。部員が集まらない状態が続いているため最近では本格的な演劇ができていないが、情熱を込めた演劇ができるよう日々精進している。文化祭では活動の様子を皆さんに見せることができる機会であるため頑張っている。

### ◎活動実績

- ・朗読劇コンクール優良賞
- ・新人デビューフェスティバル優良賞
- ・城東地区発表会出場

## 手話部

部活動指導員の指導のもと、手話会話の勉強や手話歌の練習を行っています。令和6年度に、鳥取県で行われた、第11回手話パフォーマンス甲子園の本戦に初出場を果たし、活躍の幅を広げました。大会では審査員特別賞を受賞し、地域の皆様にも応援していただきながら、様々なイベントで手話歌を披露しています。手話技術の向上にも力を入れており、手話に親しみをもってもらえるよう努力しています。



## パソコン同好会

パソコン同好会は、デジタル技術への関心をもつ生徒たちが活動する同好会で、現在は1年生3名が在籍しています。活動日は週に2回、月曜日と水曜日に設定されており、個々のペースに合わせて無理のない範囲で参加しています。現在の主な取組は、文化祭で発表するオリジナルゲームの制作で、プログラミング環境「Scratch (スクラッチ)」を使って開発を行っています。ブロックを組み合わせて動作を組み立てるこのツールを通じて、生徒たちはプログラミングの基礎的な思考や表現力を学んでいます。

昨年度の文化祭では、簡単な操作で楽しめるミニゲームを出展しました。来場した生徒の数

は限られていましたが、足を止めて楽しんでくれる様子も見られ、制作者にとって励みとなる経験となりました。

今後は、新たな部員の加入や活動の幅の広がりを通じて、より充実した学びへとつながっていくことが期待されます。情報技術が日々進化する中で、パソコン同好会もまた、学校の中でその可能性を広げていきます。



## 書道同好会

書道同好会は「書の楽しさ」を気軽に味わえる場として、活動しています。日本の伝統文化である書道の技術を学びながら、自分のペースで作品作りを楽しむことができます。型にとらわれずに、自由な発想で書を表現できるのが同好会の魅力です。昨年度は、9月の東輝祭の企画で自分たちの作品や教員の作品を展示する「みんなの書」という展覧会を実施し、多くの方に好評をいただきました。また、1月に行われた合唱コンクールの看板を作成するなど、小さいながらも学校行事に携わる形で「書の楽しさ」を発信してきました。これからも、自分たちが書を楽しむことを大切にするとともに、様々な形で書の楽しさを発信していきたいと思います。



## 進路学習部

### 進路活動この10年

この10年を振り返るにあたって、一番の転機はコロナ禍である。令和2年2月27日に、新型コロナウイルスによる感染リスクに備えるためとして、当時の安倍晋三首相が全国一斉休校を要請すると発表した。これを受けて東京都も翌28日に「国が方針を変更し全国一斉の休校を行うこととしたため、都としても、これを踏まえ、原則として令和2年3月2日から春休みまでの間、休校とする。」という内容の通知を発出した。本校も休校を余儀なくされ、学校生活及び進路活動は「コロナ前」と「コロナ後」で大きく変化した。影響を大きく受けたのは、特に令和2年度以降の進路活動である。オンラインでの会社見学や面接を実施する企業も多く、また対面での指導が制限され指導には工夫が求められた。学校での対面コミュニケーションを行う機会が減少し、部活動や学校行事が中止又は学年別開催になるなど、面接の話題の中心となる特別活動の在り方が変化した。一方、その中でオンライン化が急速に進み、生徒は一人1台端末を使用し学習活動に取り組むこととなった。企業や大学・専門学校においても、多くがホームページやSNSに力を入れて生徒募集を行っている。



【図】

### 進路学習部 稲垣 愛梨

高卒新卒者の都道府県別求人状況を見ると、東京都が突出して高く、令和6年9月末時点での求人倍率が14.50倍であった。令和6年度高卒新卒（令和7年3月卒業生）の求人数及び求人倍率（3.91倍）は、この10年間で最多となった

#### 【図】

本校においても令和6年度に受理した求人票の数は2,947件であり、就職希望者約50名に対しての求人倍率はおよそ60倍である。令和6年度からは求人票管理アプリケーションを導入し、自分のスマートフォンやタブレット端末で場所を問わず、求人票を閲覧できるようになった。進学においてもオンライン化が進み、志望理由書や事前課題の提出が専用サイトで行われる学校が増加した。他にも、総合型入試をはじめとする入試形態も多様化し、エントリーシートや志望理由書に加え、小論文やプレゼンテーション、探究活動の記録などを活用することもしばしばある。

このような流れを汲み、進路指導部は令和6年度から「進路学習部」と名称を変更し、進路指導に加えて学力向上やスキルアップに関する取組を行うことになった。基礎力診断テストによる基礎学力の把握・分析に加え、マナトレを活用した系統的なスタディガイダンスの実施、高校生手帳の導入と活用、学びの階段の作成、マナビバの運営などを実施している。

実際、入学時よりも卒業時の学力の方が、多くの生徒に向上がる見られる。エンカレッジスクールとして、卒業後の進路を決定することに加え、「学び直し」による学力向上や「スキルアップ」による資格取得を行った上で卒業してほしいと願っている。

※【図】厚生労働省のHPより一部データ使用

<https://www.mhlw.go.jp/content/11800000/001222963.pdf>

## スタディガイダンス

進路学習部 稲垣 愛梨

スタディガイダンスは、義務教育段階のつまづき箇所の学び直しを主たる学習内容とし、①朝学習の単位化（10分間×5日 週時程の弾力的運営により1単位に認定）②基礎学力の定着（進路選択の拡大と実現）を目指した授業である。学び直しのカリキュラムが充実している本校でスタディガイダンスを設置するねらいとしては、自習することの意義や、自ら行動し、課題に気付き、解決することにある。また「時間を守る」や「集中力と学習習慣の獲得」などの生活習慣を確立することである。なお、スタディガイダンスは、高等学校学習指導要領（平成21年3月告示）第1章総則第5款3（3）の「各教科・科目の指導に当たり、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るために学習機会を設けること」が設置根拠であり、現行（平成30年3月告示）の新学習指導要領第1章総則第2款4（2）アにも明記されている。平成24年度の試行を経て、平成25年度より学校設定科目として実施し、令和7年度で実施13年目となる。授業時間を8：45～8：55の10分間に設定し、各ホームルーム担任が授業担当者として実施している。導入当初は、教科担当者が学習ドリルや生徒の進路希望に合わせた自主教材を作成していたが、令和4年度からベネッセコーポレーションの「マナトレ」を使用し、系統的な学習ができるよう計画した。また令和7年度からは一人1台端末を使用し、インターネット上でスタディガイダンスを実施している。



## キャリアガイダンス

進路学習部 稲垣 愛梨

キャリアガイダンスは、1年次から3年間にわたる系統的なキャリア教育によって自己理解を深め、進路意識を早い時期から芽生えさせ、進路選択に備えて必要な知識を身に付けることを目指した授業である。

1学年の目標は「高校生活の充実を図り、自分自身についてよく考え、自己の可能性を見出す。進路意識を早期から芽生えさせ労働や職業に関する知識を蓄える」である。主に自己理解や進路に関わる知識の獲得に重点を置き、適性検査やグループ学習、話し合い活動、講演会などをを行う。またスキルアップ講座の一つである「コミュニケーションスキル講座（職場体験）」を行い、進路を考える機会としている。

2学年の目標は「高校生活の充実を図り、自己理解を深め、自らの進路選択について考える」である。より具体的に自分の進路について考えることに重点を置き、上級学校訪問や企業訪問、進路別ガイダンスなどを行う。就職希望者は実践的な求人票の見方を学び、自分の適性や志望と合わせて業界や職種を絞り込んでいく。進学志望者は、具体的な学校や学部を選ぶためにオープンキャンパスに参加する。自分のやりたいことと学力、学費、入試形態、卒業後の進路についてもさらに掘り下げて調べ、受験校を決定していく。

3学年の目標は「進路決定」である。進路決定率90%を目標に、自らの進路希望に合わせた具体的な活動を行う。面接練習や志望理由書・履歴書の書き方講座、入試方法の研究と受験計画の作成などを行う。また、高校を卒業するにあたって、労働基準法や税金、資産管理、ビジネスマナーについても学習し、社会生活をよりよく過ごすための学習を行う。

## スキルアップ

進路学習部 稲垣 愛梨

東京都は令和5年度から、進路が多様である普通科高校において新たに「スキルアップ推進校」指定制度を創設し、社会的実践力をもつ次代の東京を担う人材を育成する事業をスタートした。本校は創設初年度からスキルアップ推進校として認定され、令和7年度で実施3年目となる。下に示す①～⑤の5つのスキルアップ講座を実施している。

- ①コミュニケーションスキル講座（ジョブキャンプ・職場体験）：原則1学年を対象に、希望する企業での職場体験（インターンシップ）を夏季休業期間中に実施する。
- ②デジタルスキル講座：2学年を対象に、デジタル端末やアプリケーションに親しみ、使い方を体験することを目的としている。
- ③グローバルスキル講座（英検講座）：全学年の希望者を対象に、実用英語技能検定の合格に向けた学習を行う。
- ④使える英語力講座：令和7年度から新設された。青海にある Tokyo Global Gateway (TGG) での1日体験を行う。
- ⑤文書作成講座：3学年進学希望者を対象に、小論文や志望理由書など、進学に向けた文書作成指導を行う。



## 自立支援

進路学習部 前田 久美子

東京都は、平成28年度から都立高校等における不登校・中途退学未然防止の対応として、都立学校「自立支援チーム」派遣事業を実施している。本校ではYSW（ユースソーシャルワーカー）3名が、それぞれ週1回本校を訪問し、主に以下の3つの業務を行っている。

- ①面談等による生徒の支援
- ②ケース会議の実施
- ③関係機関との連携・調整

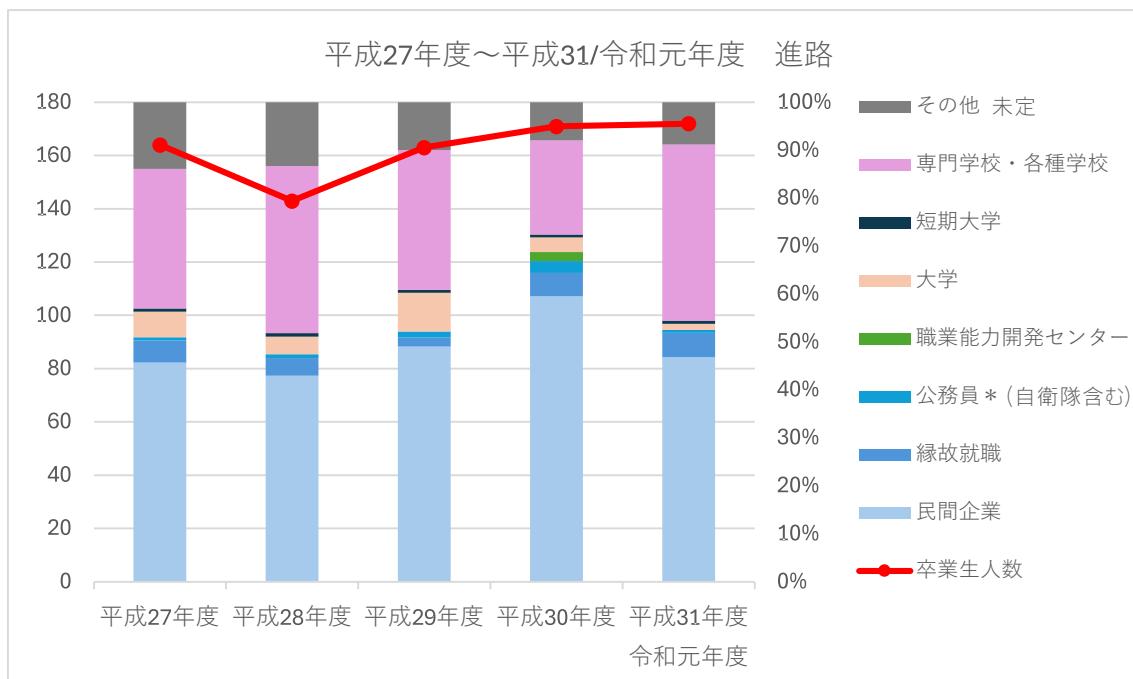
本校には、学校生活や家庭生活に関する悩みや困り感を抱えている生徒が多数在籍している現状がある。的確にアセスメントし、解決のプランニングが必要である。学校だけでは解決が難しい時には、自立支援担当が調整し、「自立支援チーム」が教職員と問題解決に向けて協働できるようにしている。支援の事例としては、進路・不登校・就職活動・友人や教職員との関係・家庭環境・児童虐待・貧困・ヤングケアラー・心身の健康等、幅広く対応している。

進路で悩んでいる生徒との面談で、家庭環境の問題が表出する等のケースもある。生徒にとって、じっくり話を聞いてもらえる存在は重要な感じ。これからもYSWの支援を借りて、生徒が生き生きと学校生活や家庭生活を送り、成長できるようにしていきたい。



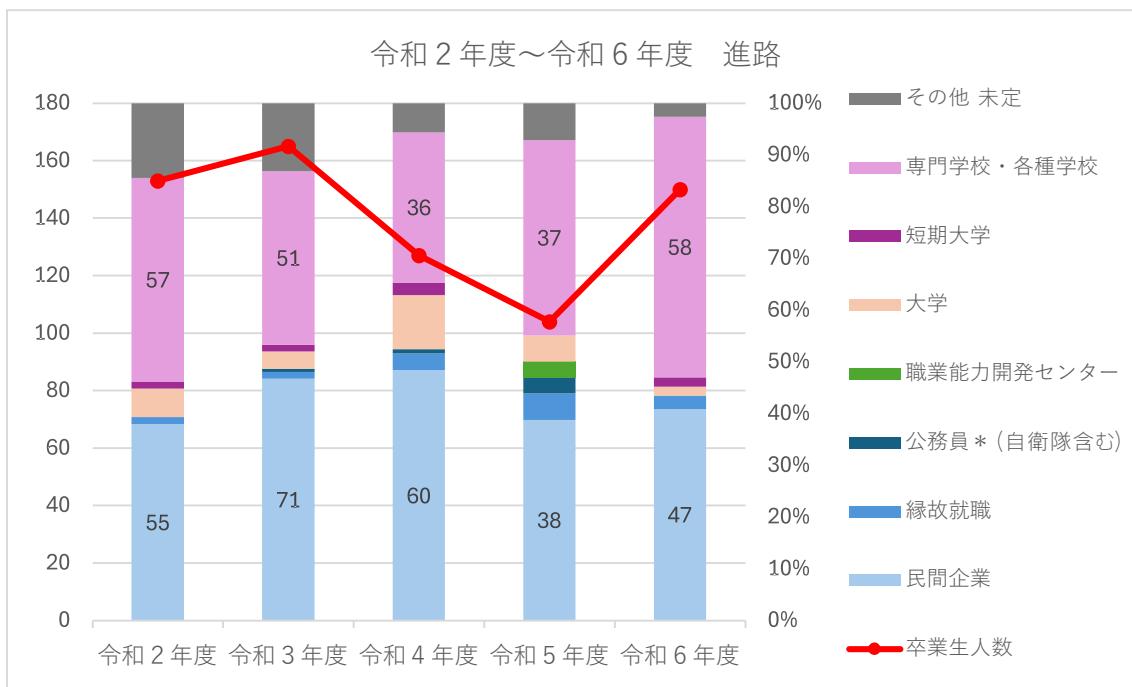
## 進路状況 1 (平成 27 年度～平成 31 年度・令和元年度)

		就職				進学				その他の 未定
卒業生人数		民間企業	縁故就職	* 公務員 （自衛隊含む）	職業能力開発センター	大学	短期大学	各種専門学校		
平成27年度	男	85	27	5	1	0	15	1	28	8
	女	79	42	2	0	0	3	0	19	13
	計	164	69	7	1	0	18	1	47	21
平成28年度	男	70	26	2	1	0	7	1	27	6
	女	73	32	3	0	0	2	0	24	12
	計	143	58	5	1	0	9	1	51	18
平成29年度	男	87	35	3	2	0	6	0	35	6
	女	76	44	0	0	0	1	1	20	10
	計	163	79	3	2	0	7	1	55	16
平成30年度	男	74	42	3	1	0	4	0	24	0
	女	97	55	5	3	0	4	1	16	13
	計	171	97	8	4	0	8	1	40	13
平成31年度 令和元年度	男	83	34	4	1	0	9	0	32	3
	女	89	40	4	0	0	7	1	26	11
	計	172	74	8	1	0	16	1	58	14



## 進路状況2（令和2年度～令和6年度）

		就職				進学				
卒業生人数		民間企業	縁故就職	* 公務員含 自衛隊員含	職業能力開発センターセンター	大学	短期大学	各種専門学校	その他未定	
令和2年度	男	80	29	2	0	0	8	1	32	8
	女	73	26	2	1	0	5	1	25	13
	計	153	55	4	1	0	13	2	57	21
令和3年度	男	81	29	5	3	3	5	1	26	9
	女	84	42	3	0	0	2	1	25	11
	計	165	71	8	3	3	7	2	51	20
令和4年度	男	62	25	5	0	4	6	0	20	2
	女	65	35	2	0	0	4	3	16	5
	計	127	60	7	0	4	10	3	36	7
令和5年度	男	59	17	0	1	7	9	0	20	5
	女	45	21	0	0	1	4	0	17	2
	計	104	38	0	1	8	13	0	37	7
令和6年度	男	97	32	8	3	4	15	1	34	0
	女	53	15	3	0	0	7	1	24	3
	計	150	47	11	3	4	22	2	58	3



## **健康・環境部**

### **保健・美化・教育相談体制**

**健康環境部主任 橋詰 真子**

平成24年度に行われた校務分掌の再編成により、保健・美化・教育相談・施設関係を統合し、健康・環境部が発足した。

施設に関する業務内容として、生徒用の机や椅子の調整など、生徒の取り巻く学習環境の整備を行っている。

美化では、清掃指導や用具の点検、補充、ごみ回収の指導などを行っている。また美化委員会においてもルールの徹底やトイレの消臭剤点検、補充を行い、学校生活の環境整備に貢献している。

保健に関しては、定期健康診断の実施、日常的な保健室の来室者対応の他に、健康セミナーによる保健指導や保健委員会の自主的な活動のサポートなども行っている。今年度は「都立高校等における産婦人科医を活用したユースヘルスケア事業」の一環として産婦人科校医が配置され、生徒や保護者の健康相談、また保健指導等に活用できることとなった。

本校では、学校精神科医やスクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカーなど多くの方々に、生徒支援の協力をさせていただいている。それらの活用について連絡調整を行うのが教育相談の大きな役割の一つである。今年度は幅広く連携を取ることができるよう、健康・環境部以外の校務分掌に特別支援コーディネーター、自立支援担当を配置し、週1回の委員会で情報共有を行っている。

施設などの環境整備も保健室での対応も、またスクールカウンセラーやユースソーシャルワーカー相談体制の構築も、全て生徒支援の一つである。今後も、本校の多様な支援リソースを活用し、足立東高校生の心身の健康の保持増進に努めたい。



## 図書館

### 「足立東」の図書館として

司書教諭 吉田 亘

令和5年5月頃までは、新型コロナの影響により、入り口の消毒液設置や、放課後の自習、生徒によるカウンター当番を中止するといった対策を行っていた。マスクの着用が緩和され始めた頃から、館内での授業、図書館当番を再開した。近年は新型コロナ対策により遠ざかってしまった生徒を図書館に戻すことを目標としている。

本校図書館は1階階段付近の一番奥にあり、壁にある看板により遠くからも視認できるものの、少し見づらくなっている。そこで、「明るく親しみやすい」雰囲気づくりを目指し、入り口に掲示板を設置し、館内の装飾や話題の本を展示棚に展示する等、工夫した。

令和5年以前は、「図書館は資料を用いて何かをするところであり、自習スペースではない」という考えのもと運営していたが、現在は「自習や友達との待ち合わせに使ってもいい」と方針を変更した。すると、以前よりも気軽に図書館に足を運ぶ生徒が増え、コロナ前の活気が戻りつつあるように感じている。

また、五十周年を迎える今年、図書委員会は、「読書や図書館の楽しさを全生徒に知ってもらい、図書館に来もらう」ことを目標とし、カウンター当番や夏休みの蔵書点検、「本の紹介」・「図書館PRポスター」の作成を図書委員に依頼し、校内に掲示している。

図書館には、約2万冊の本があり、話題の本はもちろん、雑誌11冊や新聞6紙、人気の漫画も揃えている。また、授業で用いることができる探究学習の本なども揃っている。生徒はもちろん教員の購入希望に応えられるよう、リクエスト用紙の設置やアンケートを行い、年度ごと

に生徒の実態に合った本を揃え、生徒のみならず教員も積極的に活用できる図書館を目指している。

本校はエンカレッジスクールであり、「体験学習」の考え方が必要となる。図書委員会においても「失敗を恐れず体験すること」の大切さを意識し活動している。委員会活動をとおして、様々な成功体験をし、自分に自信をもって本校を卒業してほしいと願う。



## 学校行事

### 東輝祭

生活指導部 後藤 大騎

平成 10 年度から「東輝祭」文化の部が「東輝祭」に名称変更された。現在、本校における文化祭とは、この「東輝祭」を指す。

9 月下旬の金曜日・土曜日に開催されることが通例で、金曜日はクラスを中心とした教室での企画、土曜日は部活動や体験による舞台発表となっている。両日とも一般公開であるが、事前予約制での入場である。

スローガンは、4 月以降に各クラスが提出した案の中から東輝祭実行委員会で決める。実行委員会は、各クラス 4 名、計 72 名からなり、内部組織として、実行委員長・副委員長・会計・書記がある。また各クラス実行委員内の役割は、リーダー、企画、広報、会計からなる。東輝祭実行委員は 3 年生が中心となってそれぞれの役割をこなし、東輝祭の成功に導く。

平成 25 年度までは、企画の段階で喫茶・お化け屋敷・食品を希望する団体数に制限を設けていた。しかし、平成 26 年度以降は、3 学年のみを食品・販売部門とし、それ以外の団体については観賞・体験部門とした。令和 6 年度は、1 学年では縁日やお化け屋敷が中心となった。また、2 学年ではお化け屋敷、フォトスポット、参加・体験型ゲームなど様々な企画が多くなった。3 学年は、ポップコーン、カレーとナン、チュロス、フルーツポンチを 4 階の家庭科室で調理し、2 階の各教室で販売することになった。販売部門として、クレープを販売したクラスもある。わたあめは専用の機材をレンタルし、教室で作り、販売した。

東輝祭には、文化系の部活動が参加し、発表の場となっている。体験学習の展示や発表の場でもあり、他校とは違う特色を示すこと

ができる最適な機会となっている。

また、東輝祭実行委員と生徒会による近隣の小中学校、大谷田団地を含めた地域の方々への案内の配布、中学校訪問の際に東輝祭ポスターの掲示依頼などを行うことで、本校の教育活動を地域へ発信している。

2 日目の舞台発表部門では、学年別での実施となっている。そのため、各部活動は同日に 3 回発表を行うが、曲目や振り付けの変更、そしてバンドメンバーの変更などがあるため、学年別の発表でもかなり盛り上がる。

1 学期から長い時間かけて準備した成果を発表する場である東輝祭であるが、今後も足立東高校ならではの東輝祭であり続けるよう、校則を守った上での活動を基本とし、生徒の想像力と自主性を育み、地域の学校としての役割を果たしていく。



2 日目舞台発表の様子 部活動



2 日目舞台発表の様子 有志

## 体育祭

生活指導部 江原 ミナ子

平成10年度から「東輝祭」体育の部から「体育祭」に名称変更され、平成13年度より5月下旬から6月上旬の平日に開催されることが通例となった。地球温暖化の影響で、5月からの気温上昇に伴い、令和6年度から東京武道館（足立区）での屋内開催となった。

4月中旬から体育の授業をとおして本格的に競技の練習を開始し、体育祭2週間前からは昼休みや放課後を活用し、学年別練習を行い、全体の士気を高めている。

団編成は、平成11年度までは紅白の対抗戦であったが、平成12年以降は1学年から3学年のクラス割りでの6団（1組白、2組青、3組緑、4組黄、5組桃、6組赤）の対抗戦となった。

競技種目は屋内開催に伴って、これまで代々引き継がれている競技を一部変更して実施している。

### ○競技内容

開会式・ラジオ体操

1学年みんなでジャンプ（大繩）

2学年みんなでジャンプ（大繩）

3学年みんなでジャンプ（大繩）

徒競走（100m）（全学年選抜）

障害物競争（全学年選抜）

1学年全員リレー

2学年全員リレー

3学年全員リレー

綱引き 全学年女子

綱引き 全学年男子

部活対抗リレー（各部活選抜）

団選抜リレー（各団選抜）

閉会式（各種表彰等）



## 合唱コンクール

生活指導部 江原 ミナ子

12月下旬に足立区西新井文化ホールにて合唱コンクールが開催される。各学年の発表順は、1年生、2年生、3年生の順となる。7月から、各クラスで選曲、指揮者、伴奏者の決定が行われ、東輝祭（文化祭）が終了した後、合唱コンクール委員がリーダーシップを發揮し、クラスでの活動が本格的に開始される。各クラスでは、委員の指導のもと練習を重ね、発表に向けて準備を進める。

合唱コンクールは、生徒たちの努力と協力の成果を披露する場であり、音楽を通じて友情や団結を深める貴重な機会である。合唱を通じて表現力や協調性を養い、クラス全体の絆を強めていく。また、観客の方々にとっても、生徒たちの成長と感動を共有する時間となる。

### 令和6年度の合唱曲

- 1年1組 「大切なもの」
- 1年2組 「マイバラード」
- 1年3組 「COSMOS」
- 1年4組 「心の瞳」
- 1年5組 「HEIWAの鐘」
- 1年6組 「時を越えて」
- 2年1組 「旅立ちの時」
- 2年2組 「地球の詩」
- 2年3組 「いつかこの海を越えて」
- 2年4組 「いのちの歌」
- 2年5組 「地球星歌」
- 2年6組 「明日へ」
- 3年1組 「組友」
- 3年2組 「群青」
- 3年3組 「虹」
- 3年4組 「正解」
- 3年5組 「手紙」
- 3年6組 「あなたへ」



## マラソン大会

生活指導部 江原 ミナ子

本校のマラソン大会は、体育科の授業の一環として行われる「持久走」の成果を生かし、心肺機能を高め、持久力を向上させることを目的としている。毎年2月中旬に荒川河川敷で開催され、女子は4km、男子は5km の距離を走る。

定期的な持久走は健康の維持や運動不足の予防に役立つ。また、持久走を通じて目標に向かって努力する姿勢や忍耐力を養うことができ、精神力の育成にも寄与する。ランニングやジョギングは生涯続けられる運動であり、学校教育を通じてその価値を学ぶことができる。さらに持久走は、体力だけでなく精神力も鍛えることができるため、総合的な健康教育の一環として重要視されている。例えば、サッカーやバスケットボールなどのチームスポーツは協調性や戦術理解を養うのに対し、持久走は個人の持久力と精神力を試す競技である。

このマラソン大会を通じて、生徒は自らの心身を理解し、強い精神力を身に付けるとともに、健康の保持増進を積極的に行う態度を高めることが求められている。これからもこの大会を通じて、生徒たちの成長と健康を支援していくたい。



## 修学旅行

3学年主任 野崎 明男

令和3年度は、平和学習を中心とした沖縄修学旅行を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、残念ながら中止となった。

令和4年度は、修学旅行を再開し、沖縄での平和学習及び民泊体験を行った。

令和5年度は、沖縄への修学旅行を実施し、平和学習や水辺体験などの体験学習を行った。

令和6年度は、広島・岡山方面の修学旅行を実施し、平和学習や伝統産業に触れる体験学習を行った。

今年度（令和7年度）第3学年は、4月に沖縄への修学旅行を実施した。

1日目は、ひめゆり平和祈念資料館や糸数壕を見学した。平和学習をとおして、戦争の悲惨さを知り、平和や命の尊さについて考えることができた。

2日目は、美ら海水族館を見学後、民家体験・民泊で、沖縄の文化や風土、歴史について学ぶことができた。また、現地の人々との交流をとおして、現代に起こっている諸問題を身近に捉え、考える力を身に付けることができた。

3日目は、国際通りで班別自主研修を行った。班ごとに計画を立て国際通りを散策することができた。班員との親睦を深め、社会性・協調性を育むことができたと感じている。

普段の学校生活では経験できない様々な学びを得た修学旅行を実施することができた。



## 参考資料

エンカレッジのあゆみ

平成28年度

校長 第12代 高坂 仁

YSW（ユースソーシャルワーカー）による「自立支援チーム」派遣事業が本格的に導入される。ボクシング部関東大会ベスト4（ピン級）学校近隣の保育園、小学校、中学校や地域と活発に連携。（本校体育祭に近隣保育園が参加、本校体育館で近隣の学校と合同演奏会実施、地域の夏祭りにおける櫓づくりや演奏の協力など）

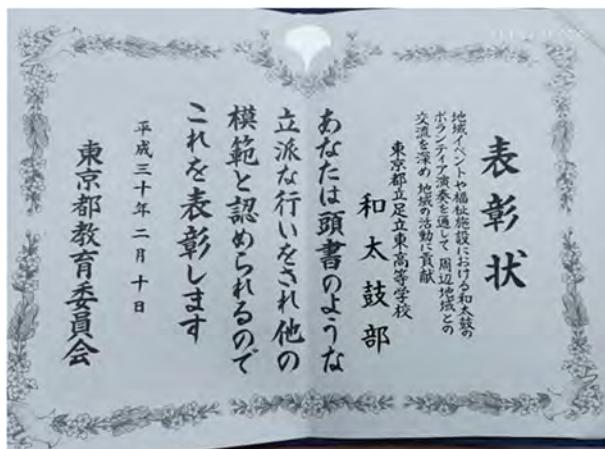


## エンカレッジのあゆみ

平成 29 年度

校長 第 13 代 小塩 明伸

和太鼓部が「地域イベントや福祉施設における和太鼓のボランティア演奏を通して周辺地域と交流を深め地域の活動に貢献」したとして東京都教育委員会から表彰される。吹奏楽部が、第 57 回東京都高等学校吹奏楽部コンクール C 組にて金賞を受賞。



## エンカレッジのあゆみ

平成 30 年度

校長 第 13 代 小塩 明伸

「校内生徒支援体制の強化」により、東京都教育委員会職員表彰を受賞。ボランティア部が毎朝の地域清掃活動により、警視庁交通部から感謝状を授与される。吹奏楽部が第 42 回東京都高等学校アンサンブルコンテストで金賞を受賞（管楽四重奏）。関東高等学校陸上競技大会出場（男子砲丸投げ）。



エンカレッジのあゆみ

## 平成31年度／令和元年度

## 校長 第13代 小塩 明伸

東京都教育委員会から「学びの基盤」プロジェクト研究協力校に指定される。文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞。ボランティア部が「東京都共生社会づくりを進めるための社会貢献大賞・特別賞」を受賞。陸上競技部（男子砲丸投げ）が関東大会に出場。新型コロナウイルス蔓延により、全国の学校が休校措置になる。



## エンカレッジのあゆみ

令和2年度

校長 第14代 平田 誠一

本格的なコロナ禍が始まる相次ぐ緊急事態宣言の発令により、全国的な休校措置が長期化。休校明けも、分散登校・時差登校・オンライン授業等を取り入れた学びの保障に奔走。入学式・修学旅行を始め、ほとんどの行事は中止または縮小。東輝祭は「東笑祭」として文化部の発表の場として実施された。全国総文祭（和歌山大会）書道作品出展。



## エンカレッジのあゆみ

令和3年度

校長 第14代 平田 誠一

コロナ禍が継続し、「3密（密閉・密集・密接）」を避けた「新しい日常」の中で授業や学校行事の模索が続く。前年度に続き、修学旅行は中止。その他の学校行事は、全て学年ごとの分散開催を余儀なくされる。コロナ禍より停滞した「学びの基盤」プロジェクト研究協力校が、新たに3年計画で仕切り直された。全日本高等学校書道教育研究会賞受賞。



## エンカレッジのあゆみ

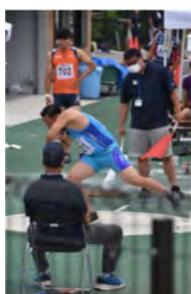
令和4年度

校長 第14代 平田 誠一

「究極の学び直し」を目指し、「シン・アダチヒガシ」と称して「脱D 3」（学習到達ゾーン）を目標とした学力向上策の推進が始まる。スタディ・ガイダンスにベネッセのマナトレを導入。学力向上委員会を発足し、学力向上シートによる基礎学力診断テストの定点観測を実施。「学力向上推進校」に指定され、放課後「マナビバ」（校内寺小屋）を開始。コロナ禍のため修学旅行（沖縄）は卒業式直前の1月に復活。合唱コンクールは「マスク着用」で実施した。陸上競技部（砲丸投げ）、ボクシング部が関東大会出場。



シン・アダチヒガシ



## エンカレッジのあゆみ

令和5年度

校長 第14代 平田 誠一

「スキルアップ推進校」に指定される。民間業者による資格・検定講座を導入。新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に変更され、コロナ禍が収束。体育祭・東輝祭・合唱コンクール等、全ての学校行事が全校開催方式で復活。文化・スポーツ等特別推薦（陸上競技・吹奏楽・地域貢献）を中止。「学びの基盤」プロジェクトが終結。ボクシング部が関東大会・インターハイ（3位入賞）に出場。



## エンカレッジのあゆみ

令和6年度

校長 第14代 平田 誠一

「海外学校間交流推進校」の指定を受ける。  
7月にヨルダンの高校生6名、2月にはインドネシアの高校生32名が来校し、交流を行った。  
熱中症対策として体育祭を東京武道館で開催。  
インフルエンザ蔓延により延期となった合唱コンクールを体育館で開催した。ボクシング部が  
関東大会・インターハイ（ベスト16）に出場。  
手話部が「全国手話パフォーマンス甲子園」に  
出場。修学旅行は広島・愛媛・岡山方面で実施。



<元原稿執筆 第14代校長 平田 誠一>

**在職者一覧**

教科	氏名	在職期間	教科	氏名	在職期間	教科	氏名	在職期間	教科	氏名	在職期間
校長	宮崎 四郎	昭和50.12～昭和56.3	岩城(川本) 典枝	平成6.4～平成14.3	地歴公民	中田 基臣	昭和51.4～昭和59.3	細川 貴之	平成28.4～平成31.3		
	吉田 良夫	昭和56.4～昭和60.3	浜崎 伸一	平成7.4～平成15.3		松橋 葉子	昭和61.4～昭和61.3	石田 耕土	平成28.4～平成31.3		
	西山 孝	昭和60.4～昭和63.3	松本 菜智	平成8.4～平成9.3		川鍋 進	昭和52.4～昭和56.3	鈴木 善隆	平成28.4～令和5.3		
	川名 幸雄	昭和63.4～平成3.3	占部 慎一	平成9.4～平成12.3		竜野 恒夫	昭和53.4～平成元.3	金澤 幹雄	平成29.4～令和2.3		
	島根 傳助	平成3.4～平成6.3	鈴木 春子	平成9.4～平成11.3		佐藤 豊	昭和53.4～昭和54.3	石郷岡 佐希子	平成30.4～令和3.3		
	宮崎 宏一	平成6.4～平成9.3	神能 精一	平成11.4～平成13.3		佐藤 豊	昭和53.4～昭和59.3	矢口 正樹	平成31.4～令和6.3		
	鈴木 斎	平成9.4～平成12.3	星 菜穂子	平成11.4～平成16.3		竜野(浜) 雅子	昭和53.4～平成元.3	平出 明弘	平成31.4～令和6.3		
	嶋 英樹	平成12.4～平成16.3	近藤 里江	平成12.4～平成18.3		並木 裕美	昭和53.4～昭和63.3	山本 正	令和2.4～令和3.3		
	星野 喜代美	平成16.4～平成19.3	大川 敦士	平成12.4～平成17.3		松葉 幸男	昭和54.4～平成2.3	北浦 啓	令和3.4～令和7.3		
	清水頭 賢二	平成19.4～平成23.3	箱田 薫	平成13.4～平成17.3		大山 輝章	昭和56.4～昭和61.3	佐藤 正紀	令和3.4～令和7.3		
	竹原 勝博	平成23.4～平成26.3	魏 凡英	平成14.4～平成16.3		樋山 典彦	平成22.4～平成25.3	山本 治輝	令和3.4～令和4.3		
	高坂 仁	平成26.4～平成29.3	鈴木 邦恵	平成14.4～平成17.3		住吉 貴之	昭和60.4～平成5.3	石黒 裕樹	令和5.4～		
	小塙 明伸	平成29.4～令和2.3	山田 一郎	平成15.4～平成16.3		横山 郁夫	昭和61.4～平成3.3	野崎 明男	令和5.4～		
	平田 誠一	令和2.4～令和7.3	篠原 み樹	平成16.4～平成19.3		小菅 博史	昭和61.4～平成4.3	小日向 成矩	令和6.4～		
	鈴木 康司	令和7.4～	飯田 晶子	平成16.4～平成22.3		若林 泰直	昭和63.4～平成14.3	荻原 修平	令和7.4～		
副校長	岡野 敬生	昭和50.12～昭和58.3	柳 清司	平成16.4～平成22.3		望月 孝一	平成元.4～平成11.3	後藤 大騎	令和7.4～		
	町田 哲	昭和58.4～平成元.3	小沢 貴雄	平成17.4～平成21.3		伊藤 哲朗	平成2.4～平成7.3	亘 佑真	令和7.4～		
	高橋 國夫	平成元.4～平成8.3	菅間 智里	平成18.4～平成19.3		石井 隆	平成3.4～平成8.3	笠井 克尚	昭和51.1～平成6.3		
	田口 雅雄	平成8.4～平成11.3	三神 智子	平成18.4～平成21.3		川島 勇行	平成3.6～平成11.3	飯島 正子	昭和51.4～昭和60.3		
	磯部 直樹	平成11.4～平成16.3	鈴木 あぐり	平成19.4～平成22.3		佐藤 和延	平成4.4～平成15.3	寺嶋(山口)富士枝	昭和51.4～昭和56.3		
	若井 文隆	平成15.4～平成18.3	家城 旭良	平成19.4～平成21.3		飯島 正子	昭和51.4～平成60.3	渡辺 国雄	昭和52.4～平成3.3		
	原田 明	平成16.4～平成19.3	柳楽 晴子	平成20.4～平成26.3		尾崎 久照	平成7.4～平成15.3	柴崎 滋	昭和52.4～昭和63.3		
	高橋 一信	平成18.4～平成21.3	荒木 涼太	平成21.4～平成25.3		揚村 洋一郎	平成7.4～平成8.3	青木 和男	昭和53.4～昭和62.3		
	小野寺 一	平成19.4～平成23.3	大谷 誠司	平成21.4～平成28.3		中川 美枝子	平成7.4～平成15.3	東 功	昭和56.4～平成4.3		
	林 健二	平成21.4～平成27.3	大野 孝	平成22.4～平成30.3		菅野 広由	平成9.4～平成11.3	斎藤 義夫	昭和60.4～平成10.3		
	鹿子木 由起夫	平成23.4～平成26.3	岸田 祐子	平成22.4～平成25.3		宮田 利一	平成11.4～平成17.3	山岸 啓一	昭和62.4～平成9.3		
	佐藤 和博	平成26.4～平成29.3	本郷 みどり	平成22.4～平成25.3		今井 直人	平成11.4～平成18.3	茂出木 祥高	昭和63.4～平成11.3		
	高山 庸子	平成27.4～令和3.3	阿部 結	平成23.4～平成24.3		玉腰 宏之	平成11.4～平成17.3	牧下 英世	平成4.4～昭和6.3		
	馬場 智生	平成29.4～平成30.3	倉部 亜希子	平成23.4～平成30.3		清水 進	平成13.4～平成14.3	中山 昌之	平成5.4～昭和13.3		
	横枕 雄一郎	平成30.4～平成30.9	高橋 健文	平成24.4～平成27.3		吉野 領剛	平成14.4～平成18.3	井筒 正章	平成6.4～昭和15.3		
	高見澤 健吾	平成30.10～令和2.3	折原 真理恵	平成25.4～平成28.3		目崎 昭年	平成15.4～平成19.3	古屋 義彦	平成6.4～昭和15.3		
	福島 泰直	令和2.4～令和4.3	福田 浩一	平成25.4～平成29.3		大島 達也	平成15.4～平成19.3	村田 俊一	平成7.4～昭和11.3		
	中澤 将人	令和3.4～令和6.3	石附 敦子	平成27.4～平成29.3		池澤 淳子	平成15.4～平成18.3	大石 徹	平成9.4～昭和15.3		
	都倉 里利	令和4.4～令和6.3	和田 稔	平成27.4～令和7.3		小野寺 直美	平成17.4～平成20.3	小林 一郎	平成10.4～昭和15.3		
	松村 貴代	令和6.4～令和7.3	柄澤 秀仁	平成28.4～令和2.3		小野 秀俊	平成18.4～平成22.3	川澄 秀一	平成11.4～昭和17.3		
	大場 崇博	令和6.4～	佐久間 芳子	平成28.4～令和2.3		小辻 俊雄	平成18.4～平成24.3	小山 克之	平成11.4～平成13.3		
	倉持 佳正	令和7.4～	鈴木 由起子	平成28.4～令和2.3		小武内 弘	平成18.4～平成20.3	小萱 久	平成13.4～平成14.3		
国語	大場 正治	昭和51.4～平成4.3	田中 蘭月	平成29.4～平成31.3		磯山 典久	平成19.4～平成24.3	横井 雅一	平成13.4～平成18.3		
	森 正敏	昭和51.4～平成元.3	林田 千花	平成31.4～令和5.3		座間 隆	平成19.4～平成22.3	正木 成昭	平成13.4～平成17.3		
	今泉 壽枝	昭和51～平成9.3	石沢 一元	平成30.4～令和2.3		三橋 重信	平成20.4～平成22.3	尾花 薫	平成14.4～平成19.3		
	宮脇 志郎	昭和52.4～昭和56.3	高橋 一諒	平成30.4～		竜渡邊 麻美	平成20.4～平成27.3	西村 昌也	平成15.4～平成18.3		
	守屋 一幸	昭和52.4～昭和56.3	渡邊 俊輔	平成30.4～令和5.3		森 寿博	平成21.4～平成24.3	藤沢 秀幸	平成15.4～平成18.3		
	三ノ輪 一雄	昭和53.4～昭和58.3	小池 泰成	令和2.4～令和6.3		小川 博司	平成21.4～平成26.3	中野 晴夫	平成15.4～平成19.3		
	田村 敏幸	昭和53.4～昭和61.3	市川 政弘	令和2.4～令和7.3		野田 高寛	平成22.4～平成26.3	藤田 稔	平成17.4～平成21.3		
	大野 章子	昭和51.4～平成6.3	長谷川 優美	令和2.4～		樋山 典彦	平成22.4～平成25.3	大島 宏基	平成18.4～平成22.3		
	金森(表谷) 久美子	昭和51.4～平成3.3	山口 真二	令和2.4～		岡田 聖	平成23.4～平成28.3	岡本 和子	平成18.4～平成21.3		
	鮎名 博	昭和58.4～平成5.3	新井 英敏	令和4.4～		南部 孝矩	平成23.5～平成25.3	室 和子	平成18.4～平成24.3		
	田中 達夫	昭和62.4～平成7.3	高士 大輔	令和5.4～		林 祐健	平成24.4～平成29.3	井黒 豊	平成19.4～平成22.3		
	中尾 和夫	昭和63.4～平成9.3	堀切 晓裕	令和5.4～		深谷 公祐	平成24.4～平成28.3	倉持 功	平成19.4～平成23.3		
	鈴木 照夫	平成元.4～平成7.3	中西 保乃花	令和6.4～		串岡 朋子	平成25.4～平成28.3	黒杉 茂	平成20.4～平成24.3		
	石田 きよ子	平成3.4～平成14.3	吉田 真	令和6.4～		小宮山 理華子	平成26.4～令和5.3	野原 幸雄	平成21.4～平成30.3		
	望月 俊江	平成4.4～平成12.3	篠岡 瑞起	令和7.4～		石井 和昭	平成26.4～平成31.3	佐村 純	平成21.4～平成27.3		
	柏谷(野原) 薫子	平成5.4～平成8.3				宮本 泰嵩	平成27.4～平成31.3	栗原 悠太	平成22.4～平成25.3		

在職者一覧

教科	氏名	在職期間	教科	氏名	在職期間	教科	氏名	在職期間	教科	氏名	在職期間
数学	豊岡 耕一郎	平成23.4～平成25.3	渡部 裕一	平成22.4～平成26.3	永島 昇太郎	平成20.4～平成22.3	高田 弘美	昭和55.4～昭和56.9			
	橋田 哲男	平成24.4～平成25.3	白木 保治	平成23.4～平成26.3	天野 士郎	平成21.4～平成27.3	佐藤 孝子	昭和57.4～平成7.3			
	水谷 勇貴	平成24.4～平成28.3	土屋 智	平成23.4～平成26.3	柿崎 優子	平成21.4～平成25.3	溝口(小林)悦子	昭和57.4～平成2.3			
	片山 早人	平成25.4～平成31.3	藤谷 俊幸	平成23.4～平成27.3	小島 和隆	平成22.4～平成24.3	高橋(春日)直子	昭和57.4～昭和62.3			
	東海林 憲明	平成25.4～平成30.3	町田 敏也	平成23.4～平成24.3	伊作 良平	平成23.4～平成27.3	中山 幸子	昭和58.4～平成7.3			
	西 真人	平成25.4～平成26.3	大嶋 文也	平成26.4～平成31.3	長谷 孝治	平成24.4～平成28.3	斎藤 留美	昭和51.4～昭和63.3			
	本間 一哉	平成26.4～平成30.3	小河原 哲佳	平成23.4～令和2.3	内田 稔	平成25.4～平成28.3	篠原 洋二	昭和51.4～平成5.3			
	青柳 健太郎	平成27.4～令和6.3	加藤 友彦	平成26.4～平成30.3	金澤 綾香	平成25.4～平成29.3	田村 美雪	昭和51.4～平成7.3			
	田中 宏昌	平成28.4～令和2.3	山田 琴美	平成27.4～令和2.3	本多 康二	平成25.4～平成28.3	柴田 恭子	昭和63.4～平成11.3			
	中村 勘太	平成28.4～令和2.3	鈴木 貢太郎	平成27.4～令和4.3	金井 悟	平成27.4～平成31.3	遠藤 哲也	平成元.4～平成7.3			
	小林 志穂	平成30.4～令和3.3	菅原 浩司	平成30.4～令和4.3	岩谷 彰太	平成27.4～平成28.3	磯田 祐史	平成2.4～平成11.3			
	村岡 晶子	平成30.4～令和7.3	川尻 直人	平成31.4～令和7.3	牛澤 大季	平成28.4～令和2.3	小室 真知子	平成2.4～平成4.3			
	大塚 龍彦	平成30.4～令和5.3	中野 克麻	令和2.4～令和5.3	小松崎 豊	平成28.4～	小原 麻紀	平成4.4～平成12.3			
	武居 悠太	平成31.4～令和7.3	齋藤 楓	令和2.4～令和6.3	須賀 千尋	平成28.4～令和5.3	徳山 博士	平成5.4～平成13.3			
	荻野 賢治	平成31.4～令和7.3	福垣 愛梨	令和4.4～	田中 翔太	平成28.4～令和2.3	志村 洋子	平成7.4～平成13.3			
	吉田 昂佑	令和5.4～	荷福 美江	令和4.4～	北爪 佑美	平成29.4～令和2.3	中澤 良秋	平成7.4～平成11.3			
	藤田 稔	令和5.4～	豊田 光乃	令和5.4～	古里 慎	平成31.4～令和4.3	岩谷(渡邊)美穂子	平成7.4～平成14.3			
	北山 元	令和6.4～	若杉 亮	令和6.4～	青木 亮	令和2.4～令和7.3	中田 涼子	平成11.4～平成16.3			
	前田 久美子	令和7.4～	高橋 正人	令和7.4～	高安 洋子	令和2.4～令和7.3	大谷(及川)望	平成11.4～平成21.3			
	生天目 敦貴	令和7.4～	河井 寛	昭和51.1～平成元.3	鮎川 俊貴	令和2.4～令和6.3	猪原 令子	平成12.4～平成15.3			
	藤本 寛章	令和7.4～	乙坂 喜代美	昭和51.4～昭和63.3	江原 ミナ子	令和5.4～	長谷川 真澄	平成12.4～平成16.3			
理科	山田 秀二郎	昭和49.4～昭和57.3	漆戸 昭也	昭和51.4～昭和62.3	磯部 未侑	令和6.4～	新谷 幸子	平成12.4～平成17.3			
	石井 良治	昭和51.1～昭和61.3	狩俣 育浩	昭和51.4～昭和58.3	山田 舜	令和6.4～	石川 彩	平成13.4～平成18.3			
	薄井 利夫	昭和52.4～昭和62.3	木下 和夫	昭和51.4～昭和59.3	飯塚 輩人	令和7.4～	残間 紀美子	平成14.4～平成20.3			
	沼口 武久	昭和52.4～昭和55.3	山崎 正美	昭和51.4～平成6.3	杉本 明美	令和7.4～	金子 美奈	平成15.4～平成23.3			
	寺嶋 康夫	昭和52.4～昭和60.3	長沢 義彦	昭和51.4～平成元.3	村上(溝瀬)裕子	昭和53.4～昭和59.3	大野 眞理子	平成16.4～平成22.3			
	石橋 賢治	昭和53.4～昭和62.3	馬場 保昭	昭和51.4～昭和63.3	鈴木 孝助	昭和59.4～平成6.3	平田 大悟	平成16.4～平成20.3			
	山田 清治	昭和55.4～昭和59.3	堀尾 俊一	昭和51.4～平成3.3	橋本 由女	平成6.4～平成15.3	横瀬 喬哉	平成17.4～平成20.3			
	小田 昭	昭和57.4～昭和62.3	福松(布施)典子	昭和51.4～平成12.3	山田 泰之	平成15.4～平成19.3	斎藤 豊彦	平成18.4～平成21.3			
	大沢 啓子	昭和59.4～平成3.3	新井 博	昭和51.4～平成12.3	繁田 卓也	平成19.4～平成20.3	唐澤 浩子	平成20.4～平成27.3			
	浅野 公彦	昭和60.4～平成2.3	井上 芳明	平成元.4～平成10.3	前田 和也	平成20.4～平成24.3	石川 康志	平成20.4～平成25.3			
	佐藤 正芳	昭和61.4～平成6.3	小野 勉	平成元.4～平成11.3	白坂 裕子	平成24.4～平成27.3	太田 斗志夫	平成21.4～平成23.3			
	新條 正志	昭和62.4～平成5.3	相川 玲	平成3.4～平成8.3	斎藤 慎之介	平成27.4～令和4.3	堀 明日香	平成21.4～平成23.3			
	杉山 浩一郎	昭和62.4～平成8.3	新村 和朗	平成7.4～平成12.3	池上 侑花	令和4.4～	末廣 康	平成21.4～平成24.3			
	大野(田中)陽子	昭和62.4～平成9.3	筒井 浩二	平成8.4～平成15.3	柴田 昭	昭和56.4～平成元.3	田岡 佑太	平成22.4～平成26.3			
	武田 明憲	平成2.4～平成13.3	中野 豊	平成10.4～平成16.3	田村 孝司	平成元.4～平成6.3	吉田 奈緒	平成23.4～平成27.3			
	長谷部 芳夫	平成3.4～平成12.3	土倉 収	平成11.4～平成17.3	笠原 伸子	平成6.4～平成11.3	小野 芳子	平成23.4～平成26.3			
	辻浦 弘子	平成5.4～平成14.3	和 敏夫	平成12.4～平成19.3	晴城 敏治	平成11.4～平成16.3	小宮 有加里	平成23.9～平成25.3			
	船越 謙作	平成6.4～平成14.3	清水 正廣	平成12.4～平成19.3	西原 正道	平成16.4～平成18.3	金山 夏生	平成24.4～平成28.3			
	郷 康子	平成9.4～平成15.3	杉渕 明子	平成12.4～平成17.3	河津(鶴見)時子	平成18.4～平成22.3	大西 秀人	平成25.4～平成29.3			
	小川 政之	平成11.4～平成18.3	古屋 一郎	平成14.4～平成17.3	柳 欣和	平成22.4～平成25.3	増田 咲	平成25.4～平成29.3			
	石井 茂光	平成11.4～平成12.3	長船 良昭	平成15.4～平成17.3	高橋 麻利奈	平成25.4～令和3.3	飯村 典子	平成26.4～平成29.3			
	尾澤 義仁	平成13.4～平成23.3	高見澤 健吾	平成15.4～平成19.3	塚本 吉紀	令和3.4～令和6.3	鈴木 健司	平成26.4～令和5.3			
	上岡 義春	平成13.4～平成15.3	新井 幸吉	平成16.4～平成17.3	荒原 一美	令和6.4～	渡邊 英子	平成26.4～平成28.3			
	樋口(石井)誠子	平成14.4～平成17.3	渥美 孝之	平成17.4～平成21.3	野呂 瑠美子	昭和51.4～昭和57.3	服部 香織	平成27.4～令和2.3			
	清水 良男	平成15.4～平成18.3	小松 博文	平成17.4～平成18.3	川井 紀子	昭和51.4～昭和55.3	米澤 伸	平成27.4～令和3.3			
	星 誠	平成15.4～平成20.3	南田 恭介	平成17.4～平成20.3	丸山 畲	昭和52.4～昭和55.3	齋藤 茂	平成27.4～平成28.3			
	櫻花 徹平	平成16.4～平成19.3	鈴木 麻希子	平成17.4～平成21.3	遠井 満男	昭和52.4～平成2.3	今川 明	平成28.4～平成31.3			
	鵜浦 武久	平成17.4～平成22.3	湯浅 友功	平成17.4～平成22.3	清水 英秋	昭和52.4～昭和63.3	有松 由美	平成29.4～令和4.3			
	松重 達夫	平成18.4～平成23.3	食本 武雄	平成18.4～平成20.3	宮坂 正昭	昭和52.4～昭和61.3	坂本 美香	平成29.4～平成31.3			
	荒木 正	平成18.4～平成20.3	高松 久一	平成19.4～平成22.3	宮崎 弘之典	昭和53.4～昭和58.3	佐野 晃子	平成29.4～平成31.3			
	青地 桂	平成19.4～平成23.3	山下 剛	平成19.4～平成25.3	藤田 積	昭和55.4～昭和58.3	藤田 一道	平成29.4～令和3.3			
	正一 亨	平成20.4～平成23.3	渡辺 邦彦	平成20.4～平成24.3	八田 由紀	昭和55.4～昭和57.8	三浦 晃子	平成29.4～令和3.3			

**在職者一覧**

教科	氏名	在職期間	教科	氏名	在職期間	教科	氏名	在職期間	教科	氏名	在職期間
外 国 語	増田 咲	平成30.4～平成31.3	情 報	高谷 真弓	平成28.4～令和3.3		近藤 克子	平成2.4～平成9.3	技 能	佐藤 英夫	昭和51.4～昭和61.3
	富田 昭博	平成30.4～令和5.3		森田 英継	令和3.4～令和6.3	神保 美智子	平成3.4～平成6.3	藤井 亮俊		昭和51.4～昭和59.3	
	小坂 修一	平成31.4～令和4.3		櫻井 晋一郎	令和6.4～	渡辺 潤平	平成6.4～平成10.3	長塚 とし子		昭和51.4～昭和54.3	
	佐伯 彰一	平成31.4～令和4.3		田原 キヨ	昭和51.4～昭和55.3	馬場 啓子	平成6.4～平成10.3	池道 文吉		昭和51.4～昭和60.3	
	松村 佳絵	令和2.4～		河内 淑子	昭和55.4～昭和59.3	及川 純子	平成6.10～平成10.3	成嶋 保夫		昭和51.4～昭和59.3	
	入川 俊則	令和3.4～		小島 ヤイ子	昭和59.4～平成6.3	渥美 良江	平成7.4～平成10.3	福田 幸子		昭和54.4～昭和58.3	
	鈴木 省三	令和3.4～令和6.3		田中(別府)喜代美	平成6.4～平成10.3	佐野 泉	平成9.4～平成14.3	岩倉 利光		昭和59.4～昭和63.3	
	川島 健太郎	令和4.4～令和5.3		西岡 恵子	平成10.4～平成11.3	嶋田 利夫	平成10.4～平成14.3	平沢 三郎		昭和60.4～平成3.3	
	松下 佳連	令和4.4～		石垣 由美子	平成11.4～平成16.3	小林 稔	平成10.4～平成15.3	平野 繁博		昭和60.4～平成7.3	
	河村 幸子	令和4.4～令和6.3		堀 麻里子	平成13.4～平成17.3	浜田 日輪子	平成11.4～平成14.3	杉原 敏三		昭和61.4～平成6.3	
	坂 龍一	令和5.4～		西川路由紀子	平成16.4～平成28.3	林 泰子	平成14.4～平成16.3	堀田 正男		昭和63.4～平成3.3	
	金子 瑠太	令和5.4～		井出 知子	平成17.4～平成24.3	岡田 一男	平成14.4～平成16.3	米山 セキ		平成3.4～平成9.3	
	野田 政紫	令和5.4～		山口 朋子	平成24.4～平成27.3	大倉 好子	平成14.4～平成19.3	手塚 幸男		平成3.4～平成13.3	
	坂本 篤洋	令和6.4～		高田 美保	平成27.4～平成30.3	菅原 かづさ	平成14.4～平成18.3	寺澤 幸徳		平成6.4～平成13.3	
	中島 英典	令和7.4～		白石 淳子	平成28.4～令和3.3	中川 安記	平成15.4～平成16.3	宮崎 実		平成7.4～平成9.3	
家庭	田中 京子	昭和51.4～昭和55.3	経 営 事 務 画 室 長	高崎 美和子	平成30.4～令和4.3	久保田 一成	平成16.4～平成19.3	鈴木 七郎		平成9.4～平成17.3	
	羽室 美智子	昭和55.4～平成4.3		後藤 桂子	令和2.4～令和6.3	平尾 勝弘	平成16.4～平成19.3	嶋田 清		平成9.4～平成13.3	
	金澤 正美	平成4.4～平成14.3		関本 智美	令和3.4～令和7.3	市村 一郎	平成17.4～平成21.3	畠山 輝一		平成13.4～平成17.3	
	高橋 由美子	平成7.4～平成9.3		伊丹 栞	令和4.4～	佐々木真奈美	平成19.4～平成22.3	佐藤 民子		平成14.4～平成17.3	
	荒屋敷 京子	平成9.4～平成10.3		臼倉 咲奈	令和6.4～令和7.3	大木 和男	平成19.4～平成21.3	大曾根 章夫		平成17.4～平成19.3	
	内田 三喜子	平成10.4～平成15.3		橋詰 真子	令和7.4～	磯貝 洋治	平成19.4～平成21.3	新井 千枝子		平成17.4～平成22.3	
	局 葉子	平成14.4～平成18.3		岩崎 弘	昭和50.12～昭和53.3	入澤 信江	平成21.4～平成24.3	伊藤 知子		平成19.4～平成23.3	
	三野 直子	平成15.4～平成21.3		中島 英順	昭和53.4～昭和59.3	宇部 史乃	平成21.4～平成26.3	遠藤 正男		平成22.4～平成24.3	
	林田 加代子	平成15.4～平成19.3		土屋 龍夫	昭和59.4～平成元.3	古谷 啓一	平成22.4～平成25.3	小川 道子		平成23.4～平成26.3	
	島田 慶子	平成16.9～平成19.3		三浦 百合子	平成元.4～令和3.3	川室 安代	平成22.4～平成26.3	藤井 勉		平成24.4～平成26.3	
	増田 智佳子	平成17.4～平成20.3		小菅 茂雄	平成3.4～平成5.3	五十嵐 雄一	平成24.4～平成28.3	ICT支援 副校長 マネジメント 支援		高橋 道彦	
	村山 美枝子	平成18.4～平成23.3		草間 茂也	平成5.4～平成7.3	柴田 久仁子	平成26.4～平成27.3	高橋 信雄		令和6.4～	
	松本(小林)和子	平成21.4～平成30.3		雲藤 敏明	平成7.4～平成10.3	古谷 ひとみ	平成26.4～平成29.3				
	中村 規予美	平成21.4～平成25.3		是安 幸子	平成10.4～平成12.3	伊藤 久美子	平成27.4～平成30.3				
	石塚 瞳子	平成23.4～平成24.3		藤井 重光	平成12.4～平成15.3	伊原 和典	平成28.4～平成31.3				
	塚原 真理子	平成23.4～平成26.3		丹羽 荣子	平成15.4～平成17.3	梅澤 直人	平成29.4～令和2.3				
	古川 優子	平成24.4～平成25.3		小熊 裕幸	平成17.4～平成20.3	十二 秀子	平成30.4～令和5.3				
	廣澤 安希子	平成25.4～平成29.3		小菅 賢治	平成20.4～平成22.3	小黒 圭介	平成31.4～令和3.3				
	中谷 佳子	平成26.4～平成29.3		大澤 宗敏	平成22.4～平成25.3	松下 祥之	令和2.4～令和5.3				
	樋口 佐知子	平成29.4～令和2.3		北林 貴江	平成25.4～平成26.9	市川 新	令和3.4～令和4.3				
	外山 沙樹	平成29.4～令和2.3		箕輪 俊男	平成26.10～平成31.3	鎌田 綾	令和4.4～令和6.3				
	吉本 未来	平成30.4～令和4.3		木村 俊勝	平成31.4～令和6.3	青山 舞香	令和5.4～				
	星 いづみ	令和2.4～令和7.3		鎌田 綾	令和6.4～	竹本 夢希	令和5.4～				
	松永 夢佳	令和4.4～令和7.3	経 営 事 務 企 務 画 室	有井 初枝	昭和51.1～平成52.1	矢崎 爽佑海	令和6.4～				
	井上 正美	令和6.4～		柴崎 常枝	昭和51.1～平成52.1	阿天坊 利子	昭和51.4～昭和61.3				
	山上 真穂	令和6.4～		中村 太助	昭和51.1～平成55.3	安川 芳子	昭和61.4～平成6.3				
				荒木 清	昭和51.4～平成57.3	寒河江 智子	平成6.4～平成15.3				
				落合(中野)啓子	昭和52.4～平成55.3	西田 美奈子	平成15.4～平成18.3				
				吉田(瀬谷)美恵子	昭和52.11～平成61.3	太田 はる子	平成18.4～平成22.3				
				矢作 登美子	昭和55.4～平成61.3	堀岡 秀清	平成22.4～平成27.3				
				西川 栄一	昭和55.4～平成63.3	臼井 久美	平成27.4～令和5.3				
				阿部 昌義	昭和60.4～平成元.3	稻村 明美	令和5.4～				
				大塚 とき枝	昭和60.4～平成2.3	宇佐美 美和	令和5.4～				
				原田 美智子	昭和61.4～平成2.3						
				田村 恵子	昭和63.4～平成3.3						
				横尾 君子	昭和63.4～平成7.3						
				吉澤 健春	平成元.4～平成6.3						
				山田 晴彦	平成2.4～平成6.7						

## 創立五十周年記念誌

令和 7 年 11 月 20 日 発行

編集・発行 東京都立足立東高等学校

〒120-0001 東京都足立区大谷田 2-3-5

TEL : 03-3620-5991

印 刷 株式会社 三誠社

〒133-0033 東京都文京区本郷 2-22-4

TEL : 03-3812-0241



リサイクル適性 A

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。